

第四章 随想

目 次

1. 加藤道夫原作「なよたけ」戯曲と 歌劇「なよたけ」台本について	1 頁	16. 一期一会	27 頁
2. 私の側面	4 頁	17. 調性感覚	28 頁
3. 埼玉県音楽教育研究会研究授業資料	5 頁	18. シンメトリー	29 頁
4. 随想「現代の風潮と音楽」	6 頁	19. 創立30周年グループ「蒼」 新作書き下ろし演奏会ご挨拶	30 頁
5. 作曲と遊びの心ー花咲く青年の心情ー	8 頁	20. 小高秀一氏葬儀お通夜参列報告	31 頁
6. 新教育課程に思うことなど	10 頁	21. 逝ってしまった人たち	32 頁
7. 「可憐なる小さき歌」自主CD制作によせて	11 頁	22. 「般若心経」現代語歌詞	33 頁
8. 葵の会第40回定期演奏会記念誌発刊に寄せて	13 頁	23. つれづれなるままに 2014	34 頁
9. 音響メディア機器の発達	14 頁	24. 既存のHPを別のパソコンに移す手順	35 頁
10. グループ「蒼」マガジン創刊によせて	16 頁	25. <small>こうさいこう</small> 虹彩光凝固術	36 頁
11. 記譜法ー昔と今ー	17 頁	26. 追想の記	37 頁
12. 伝統音楽の現代化に思う	18 頁	27. 突発性自然気胸	38 頁
13. 歌劇「ゆや」 作曲と台本作成にあたって	19 頁		
14. プライベートホームページ公開にチャレンジ	22 頁		
15. 現代能歌劇「松風」	24 頁		



1. 加藤道夫原作「なよたけ」戯曲と歌劇「なよたけ」台本について

加藤道夫「なよたけ」は、株式会社筑摩書房発行ちくま文学の森 I 美しい恋の物語に掲載されています。私は竹取物語の歌劇化を早くから考えていました。作家北村薫氏は現職時代の職場の同僚でした。竹取物語の歌劇化を真剣に考えていた当時、北村氏に脚本化をお願いしたところ、すでに「竹取物語」の戯曲が存在していて、それが加藤道夫氏の「なよたけ」であることを教えられました。「なよたけ」は、加藤道夫氏が出征する直前に5ヶ月余りで書き上げた傑作です。氏の当時の人生観が色濃く出ていて、現代に生きる私たちにとっても、人はどう生きるべきか、どうあるべきなのかを問題提起して迫ってきます。赫映姫である「なよたけ」の昇天を最終的帰結にして、人の心の美醜と葛藤を如術に描き出して、単なる「竹取物語」に終わらせていないところにこの戯曲の魅力を感じます。

①戯曲原作第一幕と第五幕を歌劇台本でカットしたことについて

「なよたけ」の全幕上演には5時間以上かかります。以前に映像芸術としての加藤道夫氏の「なよたけ」がTV上映されました。120分間のこの映像芸術は、台本作成に大変有益な資料であり、今でも大切に保存してあります。このように、120分前後の上演時間の設定が最近の一般的傾向のように思われます。映画の世界では120分程度するためにカットされたフィルムが、後に発売されるVTRやDVDでは挿入されて、完全版として発売される例が数多く見られます。

映画や演劇、歌劇は、受け入れられる生活スタイルによって上演時間が自ずと定められるのだと思われれます。モーツァルトの秀逸なオペラの上演ならば許されるにしても、現代では現代の要請に合わせた適正な時間設定をすることが間違いないのだと考えました。その意味から「なよたけ」も約2時間の上演時間でできるようにしたいと考えました。そのためには戯曲「なよたけ」の大幅なカットを余儀なくされました。まず第1に第一幕と第五幕のカットです。戯曲をしっかりと読んでみると第一幕・第五幕ともに文麻呂の父の存在があります。父綾麻呂が人間的に純粋なるが故に息子文麻呂の純粋さも領けるのでしょう。第一幕の父綾麻呂の登場がまずあって物語が始まります。第五幕では誰が見ても世捨て人となった父と子が、揃って心の平安を悦び讃え合うという設定です。この第五幕の存在によって、戯曲「なよたけ」の作者の心の純粋さが伺えて、読者や観客に安心感を与えます。しかし、上演時間を120分にするためには、この第一幕と第五幕をカットしなくてはなりません。歌劇台本では、主要なキャストを6人に絞りました。子ども達の登場もなくして大納言大伴の御行の登場から始まります。

②歌劇台本第一幕（戯曲第二幕）

歌劇第一幕の登場人物は5人です。歌劇では、この登場人物5人による五重唱が音楽的進行上必要なことであると考えました。この考え方を成立させるために、厚かましい大納言の退場を原作戯曲よりも少々遅らせて、文麻呂と清原による「奥の方がいるのです」という暴きの台詞を本人の目で語らせるように変更しました。このことによって登場人物全員による五重唱が成立し、場面設定上も一区切りつけることができます。なお第一幕の終わりに歌われる「なよたけのアリア」は全幕を通じてただ一つの代表的アリアですが、このアリアの存在も音楽的効果を上げるために必要な配慮であります。戯曲では鬱蒼とした孟宗竹林の中に竹取の翁やなよたけと共に、たくさん子ども達が登場します。子ども達の登場は時間的制約とストーリーの単純化の双方の観点からやむを得ず削除させていただきました。

③歌劇第二幕（戯曲第三幕）

第二幕は葵の祭の当日という設定で進行しています。葵の祭の「葵」は双葉葵です。徳川家の「葵の御紋」も双葉葵です。平素一般に双葉葵と、大きくて美しく大きな花を咲かせる木立葵が混同されているのではないかという話をよく聞きます。「なよたけ」第二幕の冒頭、「誰もが華やかに着飾り、それぞれ美しい花のついた葵の鬘をかけて」という葵の花は、双葉葵なのか木立葵なのか、はっきりしないところが気にかかります。それはともかくとして第二幕前半の焦点は、二人の盟友に裏切られる文麻呂です。特に無二の親友である清原ノ秀臣によって絶交が宣告させることによって、より真に迫った場面設定ができあがったと考えています。それは歌劇の進行という音楽上の配慮によって生まれました。この幕の前半を文麻呂、清原、小野の三重唱として設定し、後半を合唱中心にして設定しました。前半の区切りは、第一幕で文麻呂の無二の親友として強い印象を与えた清原自身による裏切り宣告があります。この台詞は戯曲では小野ノ連のものですが、文麻呂の無二の親友である清原自身が宣告することによって、戯曲「なよたけ」の大きなテーマである人間不信感に、より強いインパクトを与えることができました。第二幕の終わりに、なよたけと文麻呂の清らかな愛を歌い上げるソロと二重唱があります。特に最後を飾る「愛の二重唱」の歌詞は原作戯曲第四幕の中の二人の対話の一部を引用しました。この「愛の二重唱」によって二人の愛を確かめ合うに相応しい場面ができあがったと考えています。以上のような二つの歌劇上の効果は、前半を文麻呂・清原・小野の三重唱、後半を合唱中心の設定にした音楽的配慮から生まれた事柄です。戯曲では、葵の祭にいろいろな人達が登場します。これらの人々も、歌劇冒頭の花売りの二重唱以外は、時間的制約とストーリーの単純化の双方の観点から、残念ながら削除させてい

ただきました。

④歌劇第三幕（戯曲第四幕）

第三幕は「なよたけ昇天」の幕であり、日本人として「竹取物語」への憧憬に心が帰る幕であります。昇天は「なよたけ」で最も注目すべき事柄です。加藤道夫氏は、「なよたけの死」という形で昇天を扱っています。「なよたけの死」は、戯曲「なよたけ」の大きなテーマである人間への不信感、人はどう生きるべきか、どうあるべきかを迫る劇的展開の帰結としては、相応しい方法かも知れません。しかし私は「なよたけの死」という形での昇天は、一般的日本人の心の世界にある天に昇ることへの憧れ、昇天へロマンと期待感には応えてくれなように思われます。

日本人の心には、いにしえから根ざす昇天に対する憧憬が存在するように思われます。例えば「竹取物語」では赫映姫は天の羽衣を纏うと地上の人間の感情が失せて、大勢の天人に伴われて昇天しますし、能の「羽衣」で天の羽衣を纏った天女が、漁師に舞を見せながら、心の機微を持ちながら昇天します。双方ともに最古の創作物語であったり創作舞台芸術であったりするわけですが、このような二つの昇天の方法が、天への憧れとして日本人の心の世界に共感を呼ぶことができるのだと思われます。日本の民話には、代表的な「羽衣説話」や「七夕伝説」があります。双方ともに共通したところがあって、ひとつの物語が語り伝えられてくるうちに少しずつ変化したり、新たな内容が加わったりしたようです。日本の民話の中の昇天の方法だけに限って纏めてみると、天人が女房で、地上の人が夫である場合が多いことがわかります。また、昇天の方法は次の2つ纏めることができるようです。

(1) 天人である女房は、天の羽衣を纏って昇天します。

(2) 地上の夫は、いろいろな民話によって異なるのですが「朝顔」「夕顔」「青竹」「いごづる」「ブナの木」「草履を千束」その他をつたって天まで昇ります。この他に天人が娘で老夫婦に養われる民話や、能の「羽衣」のように地上の人や天女が結婚話はなく昇天する物語も存在します。「竹取物語」も結婚しない例の一つと言えるでしょう。「竹取物語」では天人の娘が人間の老夫婦に養われ、結婚の話も出てきますが実現せずに昇天するわけです。竹取の翁の家は竹林の中にあります。先に述べたように、竹は民話の中で天に昇る手段の一つです。七夕祭に竹を飾るわけは、民話の中で竹をつたって「天まで届け」という願いが込められている手段の一つだからだと思われます。こうしたところから竹が「竹取物語」で、天にかえる手段、天に昇る手段として大きく関わりをもっていると思われます。このように昇天のルーツを日本の民話にまで遡って考えてみると、一般的日本人の昇天に対する心の世界では、「なよたけ」は天の羽衣を纏って、地上に残される人との心の機微を失わずに、大勢の天人に伴われて「昇天」することが、昇天へロマンと期待感に沿った方法ではないかと考えました。歌劇では、このような昇天の形をとって作曲しました。

第三幕の前半、原作戯曲での竹取の翁と文麻呂との対話の場面では、幽玄な能の世界観が表出されています。昇天に関する日本のすべての物語の中で、最も格調高い、能「羽衣」の存在が加藤道夫氏の意中に当然あったと思われるこの場面で、竹取の翁に「なよたけは天女じゃ!なよたけを地上の女として愛してはなりませんぞ」と語らせています。民話の世界による天人女房や「竹取物語」に結婚の話常にてていることを考え合わせ、また能「羽衣」だけが舞を舞ながら昇天するという格調高いエンディングを迎えることを思うとき、原作戯曲には深い考えが竹取の翁の台詞に込められているのだと改めて感じさせられます。この対話に期する趣旨と進行に忠実に、さらに分かり易い日本語と快適な歌劇の進行を志して作曲しました。

最後に、先に述べた各幕のカットに加えて、主要登場人物6人の台詞を物語の本筋のみに焦点を絞り込んで、他は大半を削除せざるを得なかったことを申し添えさせていただきます。歌劇第一幕の大納言と竹取の翁の会話における、なよたけの生い立ちが語られる部分は、歌劇第三幕と重複するので割愛しました。歌劇第二幕の小野ノ連と清原秀臣の会話は、文麻呂の発狂に関わる以外の内容を割愛しました。同じく第二幕最後のなよたけと文麻呂の会話は戯曲の台詞を割愛して、第三幕の愛を確かめ合う台詞を入れたことを改めて申し添えます。冒頭でも述べましたとおり、全上演時間を2時間程度にするためこうさせて戴きました。

歌劇第三幕においては第一場の文麻呂と竹取の翁の会話や、第二場の文麻呂となよたけとの会話においても同様です。第一場では竹取の翁がなよたけの生い立ちや翁の心境を中心に独白します。この部分では「竹取物語」の赫映姫の生い立ちと天女であるという内容のみとしました。第二場では、なよたけの昇天に結びつく台詞のみにさせて戴きました。第三幕の所要時間を30分程度と考えたとき、第一場を15分程度、第二場を15分程度に設定し、絞り込みました。

戯曲「なよたけ」を歌劇化するにあたり、北村薫氏に紹介して頂いてから推敲したねらいは、適正時間に収めること、歌劇として最高のものに仕上げるということ以外の何ものでもありません。加藤道夫氏の驚嘆させられる語彙の豊富さに心服しつつ、いつの世でも共感をよぶであろう物語の内容を忠実歌劇化するに努めて台本を作成いたしました。2005.6.24

2. 私の側面

幼い頃チャンバラ映画が秩父町の昭和館という映画館でよく上映されました。映画の最盛期には秩父の町中だけでも四つの映画館があって、革進館は洋画専門でした。秩父座という劇場があって、観劇や映画も観られました。私はチャンバラ映画にはまったく興味が湧きませんでした。友達が東千代之助や片岡千衛蔵がどうだとかうだと話し込んでいましたが、何がそんなに面白いのだろうと不思議でありませんでした。

大学に入ると制服がありません。角帽やボタンやバッチを買いましたが、誰も角帽を被らないので私も止めました。それでYシャツにネクタイ、背広姿でもっぱら学生時代を過ごしました。ところが、当時はネクタイを締めて背広を着ている若者はきわめてまれでした。何故私は他の若者達と同じ服装ができないのだろうと、この時も疑問を感じました。しかし、他の若者達のファッションを真似ることは、私にはどうしてもできませんでした。

教師になった頃、ビートルズの音楽が大流行しました。ジャズの大流行の比ではなくて、世界中がビートルズの音楽に席卷されました。しかし私は、エレキギターの音色を本能的に拒否し、下火になってもなお、受け付けることができませんでした。歌謡曲もフォークソングもまったく興味がありませんでした。

春日部高校に在職していた頃にインベーダーゲームというPCのゲームが、やはり大流行しましたが、これもまったく興味もてませんでした。

囲碁、将棋、麻雀、パチンコ、ゴルフ、競輪、競馬、競艇は友達に誘われて行くには行きましたが、またその時には友達と一緒に掛けたりしましたが、自分から進んでいく気持ちになったことは一度もありません。いわゆる大衆の娯楽や流行には一切興味が持てなかった自分に、常に疑問を持ち続けてきました。大衆の熱狂に心が躍らず、政治活動にも傾倒できなかった自分自身に、いつも疑問を持っていたのです。

同僚や先輩からは、私は変わっている、お前という人間はよく判らないと言われたものです。確かに一般の人達から見れば、私はよく判らない人間であったに違いありません。他の人達との共通点が自分にも見えない。あるとすれば、一緒に酒が飲めることくらいでした。だから酒の席では、ワイワイガヤガヤと仲間内の話題や仕事の話題で騒いだり、好きでもない演歌やフォークソングを覚えて歌ったりしました。現役を引退して、他人にあまり惑わされる気遣いのなくなった現在、私がどのような気質の人間であったのかが、自分自身によりやく見えてきた感じがします。



枇杷の木に生まれたシラコバト

3. 埼玉県音楽教育研究会研究授業資料

この文章は、杉戸農業高校で全県研究授業を行った資料に掲載したものです。

「はじめに」ーバイエルの主題による14の変奏曲ー

昭和47年2月埼玉県音楽教育研究会研究授業資料より

この曲は、学校教育において児童生徒に初歩的な読譜力を身につけさせることを目的として創作した教材である。この曲の教材としての特徴は、全曲を通して代表的な音符を体系的に、理解しやすく配列し、それぞれの音符を中心としてできる代表的なリズムパターンに、平易な音の動きを持たせてバリエーションとしてまとめたところにある。

児童生徒は、このような音符とリズムの配列方法によって、読譜の主要分野であるリズムの何たるかを、必ずや把握できるであろうことを確信している。従って、この曲の副題を「楽譜の読み方」と名付けたが、本教材の趣旨はあくまでも各音符を中心として構成されるリズムの学習にあるということが出来る。しかし、音楽はリズムのみによって構成されるわけではない。そこには美しい旋律があり、和音があつてこそ音楽として成立する。平素の学習においても、これらの三要素が一体となった音楽の流れの中でリズムを理解させることが最も重要なことであろう。このような観点から、リズムパターンには全曲を通して終始一貫して同じ形態の音の動きを平易な形で与え、ピアノ伴奏も同種のリズムパターンには同一音形を取るよう常に心掛けながら一つの楽曲としてこの教材を作曲した。

この教材の具体的指導法は、別冊の研究報告書「学校教育における読譜指導のあり方」の中に述べておいた。本教材と併せて、読譜教育の一資料として机上の一端に加えて頂けるなら、これに勝る喜びはない。

私は、この教材の目標を一般の楽譜へのワンステップと定めている。なぜなら、この教材をマスターできたからといって、ただちに一般の楽譜がすべて読譜できると見るのは総計だし、事実読譜力はほかの全ての技術と同じく、数多くの譜面にふれることによって、初めて徐々に身に付いてくるものであると思うからである。このような意味から、その最初の教材として、この曲を与えたいのである。最後に、この研究にご指導、ご協力をいただいた埼玉県高等学校音楽教育研究会の諸先生、並びに関係諸賢に対し、深く感謝の意を表します。

ーバイエルの主題による14の変奏曲ー Var.14

4. 随想「現代の風潮と音楽」

昭和 47 年 2 月埼玉県音楽教育研究会研究授業資料より

昭和 47 年 7 月上旬の雨の降る午後、出張先の研修を終えて北浦和駅の階段を昇りかけたとき、私は、一人の外国人に呼び止められました。彼は日本語が非常に堪能で、私との会話の内容が、すべて理解できるようでした。話の内容は、ある宗教の手引き書を説明し、それを 250 円で買って欲しくないかということだったのです。黒い表紙で、紙の縁が赤く染められており、ちょっとしたバイブルを思わせる本でした。私にとっては、その宗教が初耳でしたし、神についての幼いときからの羨や、教育を受けて育っていないため、5 分程度の立ち話の後で「私自身、本当に納得できる気持ちになれないから」と断って、その場を去りました。その場を去る少し前、その外国人は、一枚の紙片を私に手渡しました。電車に乗ってから目を通してみると、協会の地図と一緒に神を信ずることの価値が書かれていました。キリスト教から派生したらしいその宗教の内容とか、外国人との話の内容からふりかえって考えてみると、私が思い出したのは、あのノアの箱舟やローマ時代末期の彫刻に見られる末世的風潮でした。そして、今日の風潮が何とはなしに当時の風潮に似ているような気がしてきたのです。

神の存在を恐れを忘れた当時の民衆の非道、戒律のない生活、享乐的なセックスの氾濫です。当時の宗教の役割は、救われない現実の生活への希望を民衆の心に与えたのだと思います。ところがノアの箱舟やローマ人のほとんどは、日々の生活が安定し、何の救いもいらないまま、遊んでいたのだと言えましょう。目標のない生活故に刺激を求め、その場限りの快樂にふけていた様子が、ローマ彫刻にもうかがえます。

今日の日本を含めた全世界の社会的風潮も全く同じではないでしょうか。衣食足りて礼節を知るのではなく、文明の発達と経済の繁栄は、民衆に享樂の生活をもたらしたに他なりません。人間の欲求のみを追い続ける音楽、刹那的衝動的行動、セックスの氾濫、流行のみを追い求める虚飾、これらを考えると、当時の民衆が神の存在と戒律を忘れたように、現代人は自分の生きるべき目標を忘れていたような気がしてならないのです。

音楽の面からいっても同じでしょう。ローマ人は単に娛樂のために音楽を用い、ギリシャ人のように深い、内面的な洞察を求めませんでした。今日の世俗音楽のあり方も同じでしょう。大半の人々は、その日その日にラジオやテレビから流れ出る音楽を楽しむだけで、深く考える芸術音楽を味わおうとする人は非常に少ないと思われます。ましてや現代作曲家の手による芸術音楽は、とうの昔から民衆とかけ離れた存在となって居るではありませんか。現代芸術家が悪いのでしょうか。それとも一般民衆の音楽への姿勢が悪いのでしょうか。芸術音楽は、確かに価値あるものなのです。しかし現代人にそれを理解しようとする姿勢がないことは確かです。世の風潮のなせる業でしょうか。

私は北浦和駅前呼び止められた外国人に、現在この宗教を信じている人は何人位いるか尋ねてみました。彼には何人いるか分かりませんでした。宗教は人間に希望を与えてくれるのだと私は思っています。しかし現代の日本人にとって、生きる希望とは何でしょう。毎日の生活は安定しているのです。生き甲斐を見つけるよりも、より給料の高い職場で働くことを望むほうが多いのです。そして憩いはテレビです。テレビが全てと言ってもよいでしょう。テレビがあれば、知識、演劇、小説、音楽全てを満足させてくれます。おそらく現代の風潮は、一種の危機であると私には感じられるのです。しかしいずれ民衆は、現代の乱れた風潮と味気なさに気づき、情操の深化をもとめ、節約と質素を重んじる時が来るでしょう。なぜなら歴史は繰り返すという諺があり、事実繰り返されてきたからです。そう考えたとき、現代の風潮を憂う私にとって、一種の安心感のようなものが胸中に浮かんできました。願わくは今日までの歴史が示す如く、世の乱れの解決が、大規模な天災や人災によってなされ、我々人類がやっとその非に気づき、良識に目覚めるといふ二の舞を踏まぬことを祈るのです。

昭和 46 年 7 月

「むすび」

埼玉県音楽教育研究会研究授業資料より

世界 134 ケ国には、まだ文盲の多い国があると聞く。その中で日本は国民の 90 % 以上が高等教育を受けており、先進国の中でも日本の教育の普及度と実践方法は、問題点はともかく、今や先進国の中でも世界の注目の的であると言われている。しかし音楽教育はどうであろうか。多少の問題点はあるがという逃げ口上で片づけられようか。第一に他教科の殆どが学校教育で施された内容で大学に進学できるレベルに達することが出来る。音楽は学校教育だけで何故大学へ進学できる態勢が整わないのか。第二に国民の 90 % 以上が高等教育を受けている。しかし何故、大多数の国民に読譜能力が身に付いていないのか。この二項目だけでも、音楽という教科が、他教科と比べて非常に立ち遅れていることがわかるであろう。これは教科の特殊性でも何でも無い。今や我々は明確にこの現実を認め、問題解決に努めるべきであろう。

私は楽譜が読めません。音楽は分かりませんという言葉公然と口にすると人に我々はよく出会う。

これが、もし他の教科ならどうであろう。私は英語が読めません。数学は分かりませんと公然と言い放つ人がどこにしよう。音楽に限って、何故公然と許されるのであろうか。何と言ってもその大きな要因は、日本人の殆どが本当に音符が読めないことであり、この根本的欠陥が音楽の持つ高い精神内容に自ら入り込めないで、音楽が分かりませんと言うことになっているのだと思う。もし小学校の修了段階で、児童の 90 %以上が読譜できていたならば、中学校の授業内容は現在とは一変し、内容的に相当充実したものとなるであろう。その上にある高校音楽教育はどうか。まさに 180 度の飛躍を遂げるといっても過言ではあるまい。以上ことが現実となり、その教育体制のもとで音楽教育を受けて成人した人達が、どうして前述したような放言を口にできようか。他教科と同じく、一笑にふされるであろう。現在行われている読譜指導の体制は、あまりに貧弱であろう。この問題は、我々全音楽教師をはじめとして、関係諸氏が一丸となり、真剣に考えねばならない問題であると思う。無論小学校で音楽担当しておられる先生方は、音楽科学習指導要領をお読みになっておられることと思う。

音楽教育の基礎的教材と指導体系とが、過去において確立されていたならば、現在は国民の殆どが読譜することができ、その結果日常の音楽生活は質的内的にかなり高められていたであろう。このことは現在の科学と経済の発展に支えられた外形のみの音楽文化とは全く異質の、国民の音楽生活の内的レベルの向上を、併せて美的感覚レベルの向上を十分に期待できたことを意味する。—真の音楽教育とは何か。音楽教育の根本とは何か—。これを実現するために我々は何をなすべきなのか。将来日本の音楽教育の様相が一変し、児童生徒の読譜能力が他教科の基礎的知識なみに身につけられるレベルになったときにこそ、音楽教育の根本が確立したと言えるし、真の音楽教育は初めて軌道に乗るのだと私は確信している。いつか来るそのときにこそ、児童生徒は自ら表現した美しさに感激し、その美しさを見つめ、すばらしさを感じ取ることができるであろう。いつかくるそのときにこそ、日本の音楽教育は情操の陶冶に向かって揺るぎない前進をすることができるのだと私は信じ、この研究の筆をおくことにする。

昭和 46 年 7 月



5. 作曲と遊びの心—花咲く青年の心情—

1990年音楽之友社「教育音楽」3月号寄稿原稿

この文章は、春日部高校で行った全県研究授業の内容にもとづいて、教育音楽に寄稿したものです。

◆はじめに—喜びが伴う遊びを—

わたしが子供の頃は無心に遊んだものでした。日暮れまで遊んで、暗くなってやっようやく家に帰ってよく母に叱られました。その位遊んだし面白くて仕方ありませんでした。家での勉強が嫌いで宿題をやるのが本当にいやでした。子供の頃の遊び心をいま思い出してみると、それはもう無条件に受け入れるというか、遊びに飛び込んでいくというか、心が浮き立ってうれしくて仕方がないという心境でした。

大人になった今は、どうしてもそのような心根で無心に遊ぶことは絶対にできません。大人になっての遊び心は二通りあるように思われます。一つは遊んだ後に喜びが伴う遊びと、遊んだ後にむなしさが残る遊びです。喜びが伴う遊びは、確信をもって打ち込める遊びです。むなしさが残る遊びは、対象に意味と価値が見いだせない遊びであると思われます。喜びが伴う遊びには、人は努力をおしきませんし、どんなに辛くても後の喜びを期待して努力するでしょう。

例えば子供がピアノを習うとき、ピアノが好きなお子は遊び心で接して絶大な進歩を示すでしょうし、ピアノが嫌いなお子は、どうしても勉強と同じになってしまうのではないのでしょうか。人が一つのことに打ち込むとうになるのは、常に出会いがあると思います。それは一つの事柄に感激したときであったり、人に感激した時であったりするでしょう。

私が子供の頃、勉強が好きになったときにそうであったように、いい先生とは分かりやすく教えてくれる先生であり、子供の心をわかってくれる先生でした。そうした先生は無条件で好きになり、教科に無条件で飛び込んでいったものです。だから私の作曲の授業が、その意味で出会いの場でありたいと思っています。生徒達が私の授業がよく分かるので作曲が好きになるという出会いになってくれないかと考えているのです。そして楽典も作曲法も10人が10人、すべての生徒が分かることを目標に授業したいと心がけています。

◆作曲—趣味を生かせるように—

作曲は遊び心から考えると決してやさしい要素ではなくで、遊べない事柄の方が多いでしょう。しかし、楽典や転調や作曲法を一通り学習し終えた後には、自分の内的欲求を表現するという自由意志の発露となるわけです。いい曲ができたときの喜びは生涯忘れられない思い出となるのであって、作曲の授業を通しての経験が、後に音楽を趣味とする生徒が気軽に作曲に入っていける契機となってくれることを願っています。

音楽が好きなお人はたくさんいます。でも作曲となると別で、まったく手がけていないし、正直なところ手がけられないでしょう。作曲は専門家がやるものであって、趣味としては手がつけられないというのが一般的な考え方のようです。私は、そう考えるのではなくて趣味として音楽に親しんでいるのだから、さらに趣味を生かせるように作曲をすることを考えたいのです。音楽の授業を受ける生徒の多くは専門家になるわけではありません。だからこそ、気軽に作曲できるようになれば本当に素晴らしいことだと思いますし、このようにして作られた曲こそ美しく、人の心を打つ曲が生まれるのだと思うのです。

◆作曲の授業の姿勢

作曲の授業のねらいとするところは、心に浮かんだメロディーに和声づけをして、その和声を古典的伴奏形にして演奏できるようにするとか、幾つかの楽器のアンサンブルに工夫するとか、古典の楽式に沿って作曲できるようにすることです。そして、転調していたら、それなりの和声づけが正確に把握できることがねらいです。これらの事柄も、中味のないことを要求すると際限ありませんが、日常必要とする、最も基本的な事柄だけは把握させたいと考えています。

これらの事柄を達成させようと努めている事柄をあげてみるならば、教師の平静な雰囲気と態度、視覚的に理解できるレイアウト、内容の精選、平易な題材、平易な言葉等になると思われます。作曲するために必要な事柄は、学問的に扱うと高度な内容ですが、学生時代に習得した知識の受け売りでは、生徒達が分かってくれないことは自明の理です。17年間の作曲指導の中で努力してきたことといえば前述の事柄につきますのです。

◆作品発表会

作曲の授業の総仕上げが作品発表会です。二学期に提出した曲をクラスの友達に手伝ってもらって演奏するのです、これらの曲は、ジャンル、形式、演奏形態等すべて自由で、まったくの自由創作となっており、日頃の音楽生活の中からのオリジナル作品であると言えます。演奏される曲はクラシック、フォーク、ポピュラー、ロック、シンセサイザー、コンピューター等々、実に幅広い分野

にわたっています。作品や演奏の質や程度は、半数が中程度で、4分の1が上、4分の1が下といえます。中位の作品や演奏とは、一応の曲になっていて発表できたといえるものです。それほど面白くない、いわゆる中位の曲です。

歌曲は彼らの世代相を端的に物語っています。男子高校であるがゆえに、中学校時代のガールフレンドと今はもう分かれている淋しさを歌い上げるものが非常に多いし、演奏後に盛大な拍手を受けます。歌曲で言えることは、一番の歌詞は作れるが、二番三番の詞をつけるのが共通して不得手だといえます。

いい演奏を聴かせてくれるのがシンセサイザーの作品です。ほとんど完成されたカセットテープ録音をバックにして、持参したシンセサイザーを使って曲を披露してくれます。自分でシンセサイザーを購入するだけのことはあって、音楽への知的欲求も抜群で、オリジナル創作に意欲的に取り組みます。従って仕上がりもよく、シーケンス機能が演奏テクニックをカバーしてくれるため、音色の良さと合わせて群を抜いたできばえとなります。

弦や管の曲は、個人的に練習しているとか、部活動に所属しているとかで経験しているだけあって、専門的色彩の濃い演奏をしてくれます。演奏テクニックが前面に出たバリエーションや、独奏ソナタ等で優秀な作品が多く、クラシックの傾向が強いのも事実です。

リコーダー作品は、質的な格差が非常にあります。作曲面での至らなさもありますが、演奏面でも心得不足が目立つのです。中学校でリコーダークラブであった生徒や、特にリコーダーを選んだ人は、リコーダーのオリジナル曲として素晴らしいと思われる曲を演奏してくれます。

ピアノやキーボードを使った曲は、リコーダーと同じことが言えます。バイエルやソナチネ程度の生徒は、それなりの曲と演奏になりますし、音楽大学志望の生徒は、またそれなりの演奏をしてくれます。

◆おわりにー花咲く青年の心情ー

作曲の授業に生徒達が能動的に参加しているか、無条件に遊び心で飛び込んで来てくれていてるかという点が問題になります。総じて生徒は能動的に動いていて、毎年作曲の成果は大いに上がっているという結論を偽りなく出せます。この作曲の授業を通していえることは、作品発表で青年の心情が花咲くことです。多感で熱い血の通った発想と音楽表現があります。それは、若い世代の感じたままのオリジナルであります。クラシック派もポピュラー派も、お互いに心情を吐露し合ったことで、友達の音楽を通して別のジャンルの曲を理解しあえます。そしてなかなかいい発表会だったという感想を持ってくれるのです。



6. 新教育課程に思うことなど

平成 10 年 10 月 8 日 (木)

全日本音楽教育研究会高等学校部会全国大会「埼玉大会」公開授業「創作」研究資料より

新教育課程がある程度明確になってきましたので、スペースがありましたから許される範囲で芸術科音楽に関する所感を述べたいと思います。

明治時代の黎明期に当時の文部省が学校教育に西洋音楽を全面的に導入しました。このことが後の学校音楽教育にとどまらず、日本の音楽文化全体に絶対的な影響を与えて、今日の日本の音楽文化全般にその答えが出ているように思われます。西洋音楽を学校音楽教育に導入したことが是だったか、あるいは非であったかということは一概には結論づけられないと思います。

日本の音楽文化がアジア各国に多大な影響を及ぼしているようですし、一方国内では我が国の伝統音楽や伝統芸能が、ごく限られた所でしか公演されかくなってこと等を併せて考えなくてはならないでしょう。アジア各国も日本の音楽文化西洋音楽の影響を多大に受けているようですが、自国の音楽文化については日本よりは大切にしているように思われます。

さて新教育課程では高等学校普通科の必修科目が大幅に絞り込まれました。他教科の必修科目が大幅に絞り込まれたのですから芸術も平等にということでしょうが、芸術は必修 2 単位になりました。中学校では 1 単位に減少しています。中学校が 1 単位になったという事は、芸術科の教員数に直接影響を及ぼすでしょう。また、中学校の週 1 単位時間の授業内容に高等学校芸術科教師として何を期待すればよいか大変に心配しております。

高等学校芸術科授業では、他教科の必修科目が大幅に絞り込まれているわけですから、平等に必修科目が減少したのであると思っています。それでも芸術Ⅱ・芸術Ⅲがこれまでのような芸術教科の中での 1 科目の選択ではなく、複数の教科の中からの 1 科目を選択する方向に転換していくでしょうし、その授業内容もこれまでのような美的感性の伸張を前面に掲げる授業ではなく、個々の進路希望に対応した内容に変わらざるを得なくなるのではないかと思います。今後、芸術教科の教師が全科目揃っている高等学校は次第に数が少なくなってくるのではないかという危惧が生まれたことと、生き残っていくためには目に見える形で進路にプラスになる授業内容に切り替えていかざるを得ないのではないかと思います。

今日までの学校教育は日本の音楽文化の向上に寄与してこなかった。寄与してきたのは音楽関係の企業ではなかったかという発言が教育課程審議会の席上でされたと聞き及んでおります。西洋音楽を学校教育に導入した文部省が、当時文部省唱歌を盛んにつくり名曲をの数々が大変に愛されてきました。しかし、「小学唱歌校門を出ず」という批判がなされたことも事実です。以後、日本の名曲の数々がおしまべて西洋音楽理論に基づいて作曲されたこと、そして一部の人々には受け入れられても、確かにその後の名曲の数々も「校門を出られなかったこと」を思うにつけ、西洋音楽理論では日本人の琴線に触れる、根っからの日本の美意識に基づいた名曲は作れないのではないかと思います。

文部省唱歌以後何らかの施策、例えば日本の伝統音楽理論に学んだ新しい感覚の日本の和声や旋律と西洋音楽との融合で作られる新しい「日本の子供の歌」づくりの奨励や、文化庁・文部科学省との協力による日本の伝統音楽理論に基づいた新しい感覚の日本の和声や旋律による芸術音楽づくり等を推進して、日本の音楽文化の質的向上を図り、学校音楽教育のその後知性の伴った感性をはぐくむ音楽教育を目指すべきではなかったかと考えております。

新教育課程の理念には現在まで続いてきた全人教育的教育精神にもかげりが見え始めたように感じられます。日本の社会には知的天才は必要だが、知性豊かな芸術的感性や情感は必要ないと言っているように感じられます。この傾向は一時的なものであって欲しいと願っている一人です。

日本は自由で平和な国です。だからいろいろな音楽が流行し、また衰退していてもよいでしょうが、大切な音楽文化は育まなければならないと思います。大切な文化を育てていくのが施策なのだと考えます。このように考えてくると明治以後の西洋音楽の導入と施策で、日本の音楽文化が失ったものは大きかったと私は思っております。今日に見られるような野放図な西洋音楽の氾濫ではなくて、明治の黎明期から計画的に日本伝統音楽文化を基調にした西洋音楽との融合連携の中から、新しい日本の音楽文化が生まれてくるべきであったと感じております。それは文化庁や文部科学だけではなく、明治から平成に至るまでの日本の音楽家の責任でもあったでしょう。学校 5 日制の導入によって、今後の学校教育で育てられた子供達が知性の伴った芸術的感性をそなえて、日本の風土にふさわしい心をもった人間に育つことを願ってやみません。

7. 「可憐なる小さき歌」 自主CD制作によせて

ーシンセサイザー機能を考えるー

平成17(2005)年6月

この度青年時代から今日までの心に浮かんだ数々の曲の集積の一区切りとして、自らのシンセサイザー演奏と録音、によるCDを自主制作いたしました。私は常々現代音楽を手がけておりますが、ごく普通にこのようなメロディーが浮かんできます。耳にこびり付いて離れず、他の事柄をやらなければならないときに離れず、邪魔になるので一応5線にまとめておいたものが、今回このような形になって皆様方に披露することになりました。機能音声による私の曲すべてがここにある訳ではありませんが、どうか気軽にお聞き頂ければ幸いに存じます。

このCDは「可憐なる小さき歌」全30曲の全貌を明らかにすべく、自分自身でシンセサイザーを使って曲集に編纂いたしました。この曲集には歌曲や現代音楽、及びジャンルの異なる曲を除いて、ほとんどの自作曲が網羅されています。タイトルでお分かり頂ける通り小さな曲の集まりです。作曲年代順に配列するというよりも、むしろ通して聴いていただいたときの曲想の移り変わりに主眼をおいて配列してあります。青年時代に作られた曲からごく最近の曲までの流れに、聴く人の心情を重ね合わせてお聞き頂ければ幸いです。

①二台のピアノと二台8手のピアノ曲

演奏会用ピアノ曲集「可憐なる小さき歌」を1989年に音楽之友社から出版しました。演奏グループ「葵の会」の方々を中心にピアノ・ソロや二台のピアノで、機会ある毎に発表して頂いています。

今日までピアノ曲集は、鍵盤楽器が考案されて以来数限りなく作曲されてきました。

バッハのオルガン曲やチェンバロ曲をはじめ、ピアノ曲になってハイドン・モーツァルト・ベートーベンを経てシューベルト・シューマン・ショパン、メンデルスゾーン。フランスのラヴェル・ドビュッシーへと数多くの作曲家がピアノ曲を手がけてきましたが、これらの鍵盤楽器の曲の多くは、手軽に音楽が奏でられることを目的にしてピアノを使ったのだと思います。このことはピアノが考案されたこと自体がそうなのだろうと思います。ある意味ではピアノ曲はピアノ曲で終わっていたのです。

私のこの曲集は、初めからテンポのゆれを要求している曲が圧倒的に多く、この辺りの作曲者の内的要求をピアニストの演奏に要求しても、100%満足できる演奏が実現することは不可能だと感じたことがシンセサイザー化に踏み切った理由にあげられます。ましてや現時点での30曲にもなる曲をピアニストに演奏依頼をすることも不可能に近いことがあげられます。この辺りの事情もこの曲集を私自身のイメージによる曲づくりと私自身の手によるシンセサイザーでの音作りをしたCD制作を行う気持ちになったことが理由にあげられます。以上がピアノのソロ曲集を出版しながらシンセサイザー曲集を出した私の見解です。決してピアノでの演奏を見限ったわけではなく、二台のピアノと二台8手のピアノ曲も作曲しています。このCDのような演奏を人の手によって演奏されることを期待しているからです。演奏をしてくださる人達にはCDが演奏の拠り所になればと考えています。

②シンセサイザーの役割

管弦楽は演奏規模が大きいためにしっかりした曲の構成のもとに作られることが多いようです。事実、古今の名曲はこのようなことが言えると思います。

この曲集CDは曲の特徴として作曲したときの心の動きを鏡に映すように作られた集合体であるのに、このCDの中のシンセサイザーでは管弦楽を主体として音色が作られており、しかも編成が自由で、求める音色が自由に使われております。このことはシンセサイザーが完成の域に到達して手軽に使える楽器として位置づけられるようになったことに大きな理由があると言えます。シンセサイザー独自の音色が使われておりますが、これは機種や製品のモデルチェンジで様々に変化するので、この音色を云々することは無理でしょう。私が歌が好きだと言うこともありこの曲集の特色の一つにシンセサイザーの「声」が使われています。

ピアノは曲を記録する上で手軽に使われる手段として最適です。本格的なピアノのオリジナル曲は別として、ピアニストに7色の音色の変化を求めることもまた、あるいはその辺りの理由が言えるのかもしれませんが。このことで最も知られた曲としてムソルグスキーの「展覧会の絵」があげられるでしょう。ラヴェルの管弦楽編曲が有名です。

何故シンセサイザーかということが挙げられると思います。私は楽譜の浄書用コンピューターソフトとして「フィナーレ」を使用しています。このコンピューターソフトに書いた曲が音楽として再現される機能が以前からあったのです。2003年度版までのこの機能は、私的に楽しむ位のレベルでした。

2004年度版になって、この音楽再現機能が飛躍的に進歩して、現在日本国内で販売されているシンセサイザー・ワークステーションを完全に追い抜いたと考えています。従ってこのCDのサウンド

は楽譜浄書用ソフト「フィナーレ」にある音楽再現機能を使っただけのものではないです。

シンセサイザー・ワークステーションについて

私は現在、88 鍵盤のニューモデルシンセサイザーを持っています。最新型の機種でデジタルサウンドの音色の数は 2000 音色を超えるものです。しかしシンセサイザーそのものにも、現時点では音作りの上で幾つかの致命的な限界があることがわかりました。

その一つはトラック数が 16 しかないという限界です。このことは 5 線を 16 本しか使えないということです。現在のシンセサイザーではこれ以上の音色数を同時に鳴らすことができないのです。

その二つはテンポチェンジが不可能であることです。クラシック分野での音楽作りには欠かすことに出来ない事柄に曲の途中で頻繁にテンポが変わることが挙げられます。したがって現状のままではクラシック分野でのシンセサイザーの使用は不向きであることがわかります。

その三つ目は未だに使われているコンピューター言語が「DOS」に頼っていることです。コンピューターがこれほど進んでいるというのにワークステーションとなうって使われているシンセサイザーのコンピューター言語が「DOS」ではシンセサイザーとウインドーズ仕様のコンピューターを繋いで、自由に双方を駆使することはできません。アメリカ主導で販売されているコンピューターと日本国内をターゲットにしているシンセサイザー・ワークステーションの違いでしょうが、この辺りの積極的開発意欲の欠如を感じざるを得ません。未だに「DOS」ですか。化石ですよと言われます。

楽譜浄書用ソフトに付随している音楽再現機能は、長年にわたってあった機能です。これが最近のコンピューターの発達と相まって充実してきました。2004 年度版になって、この音楽再現機能が飛躍的に進歩して、はじめて楽譜を浄書すると同時にこの CD のような音楽を奏でられるようになったのです。まさに独立したシンセサイザーであると言えます。

心に浮かんだ曲集に「可憐なる小さき歌」と名づけて、シンセサイザーで自主制作した「可憐なる小さき歌 Part2」です。青年時代に作られた曲から最近の曲まで、聴く人の心情を重ね合わせてお聴き頂ければ幸いです。



8. 葵の会第40回定期演奏会記念誌発刊に寄せて

平成16(2004)年4月24日

葵の会入会は第4回定期演奏会(1968.6.22)である。以来新作を発表し続けて現在に至っている。この一文は記念誌冒頭に掲載された文章である。

第1回プログラムへのお祝いの言葉に当時のNHK浦和支局長日下部菊造氏の次のような一文が掲載されていますので、抜粋して紹介させていただきます。「大切なことは、やはり音楽する生活とでも言えますか、われわれの日常生活の中で、しっかりと自分なりのペースで音楽を生き抜いてゆくことだと思います。その意味で、今回の『葵の会』の発足は慶びにたえません。音楽を通じて親睦を図り、情操を高めるなどという平凡な理屈からでなく、まず地元、自分達の身近に音楽の集いをといる皆さんの強い欲求が、この会を発足させたのでありましょう。可憐な花びらにも似ず、大地に強靱な根を張る葵のように、地元の同好者が一人でも多く加わることによって、どうぞ『葵の会』がすくすくと育っていくことを願ってやみません」。

第40回記念演奏会という大きな節目を迎えることができました今、葵の会へのご支援とご協力をいただきました全ての方々に深く感謝を申し上げます。葵の会はお陰様でしっかりと根を張って立派な会に成長することができました。とくに、私たち葵の会のメンバーを現在まで暖かくご指導し導いてきてくださいました土肥泰(故人)、ウイリアム・ウー、大谷冽子、金子ツネ子(故人)、近藤瑞恵、中野俊也、西原匡紀の諸先生方を初めご指導いただきました全ての先生方に葵の会一同心から深く感謝を申し上げます。

一口に言って40年とは、人の歴史に照らし合わせると一生か半生かということになります。葵の会を発会なさった当時のメンバーである昭和39年に埼玉大学を卒業された飯浦君代、中村恵子、山崎滋美の各氏を含む5名の皆様方と、二級上の田中清恵先輩に深く敬意を表したいと思います。私たち葵の会のメンバーが何故40年間も演奏活動に自分の人生を重ね合わせてきたかを考えます。田中清恵先輩が以前の葵の会への挨拶の中で「教員としての資質の向上の一環として実力向上を目指す、ピアノ教師として、また声楽の教師として、それぞれの立場での資質と実力の向上を目指す」ことを葵の会の活動の意義として挙げています。メンバーの一人ひとりが、自身の実力向上に心血を注いでまいりました。

おそらく葵の会会員全員が今後もメンバーであり続けるであろうと考えます。何故なら会員の一人ひとりがピアノが人生であり、歌が人生であり、楽器を演奏し続けることが人生であると思うからです。私個人も今後メンバーであり続けます。私にとって作曲が人生だからです。そして、もう一度この世に生を授かったなら、また音楽に一生を捧げて悔いがないかと自分に問い、全員がイエスと答えるであります。

美しい声と、美しい音色と、美しい曲を奏で続けて、しかも美しい心と容貌を持ち続けることが、音楽を愛する者にとって、人生にこの上ない彩りを添えてくれるからであります。

今後の葵の会の成長に欠かせないことは、今までそうあり続けたように、後輩の皆さんがたくさん入会して、葵の会がさらに充実安定した演奏活動を続けてゆき、多くの方々のご支援とご協力を頂き続けることだと考えています。

刊行いたしましたこの記念誌は、葵の会が40年間歩んできた記録です。第40回記念演奏会という節目にあたり、諸方面のすべての方々に心から感謝の気持ちを込めて編纂させていただきました。今後とも葵の会へのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



9. 音響メディア機器の発達

平成 17(2005)年 12 月 22 日

1940 年生まれの私は、音響メディア機器の発達とともに生きてきました。小さい頃はラジオの時代、学生時代はアナログオーディオ機器の時代、教職時代はデジタルオーディオ機器の時代でありました。そして 1975 年以後の春日部高校時代からコンピューターが一般庶民の手に入り、ワープロと PC による楽譜の浄書時代に入りました。私が生きた時代の流れは、音響メディア機器の発達の時代と重なったということができます。私は、自分で使えると思った機器は、真っ先に手に入れて使いこなすタイプの人間であったようです。

①オーディオ機器の発達

中学校時代に家にあったプレーヤーは、ラジオの下にプレーヤーを置いて聴くタイプのもので、78 回転 SP と 45 回転 EP レコードがかけられました。ロッシーニのウィリアムテル序曲の EP レコードが大好きでした。高校時代にベルリオーズの幻想交響曲のポケットスコアを購入し、市立図書館から 78 回転 SP レコードを借りて家のプレーヤーで聞きました。大学 1 年の頃も 78 回転 SP のレコードをよく聴きました。兄が浦和市立大原中学校に勤務し、私が大学 1 年で一緒に下宿していた頃、78 回転 SP 手巻きのプレーヤーとレコード 10 枚以上を兄からももらいました。カルーソーの歌うオー・ソレ・ミオが大好きでした。数学科の友達に一式貸したら、戻ってきませんでした。大学 3 年の頃に 33 回転のステレオの時代に入ります。大宮市立桜木中学校の教育実習で、セパレートスピーカーから流れるステレオレコードを初めて聴きました。

杉戸農業高校時代(1964 年頃)は今は殆ど使われなくなりましたが 4ch.の時代でした。春日部高校時代(1975 年頃)のオーディオ機器は、前半がアナログの時代で後半にデジタルの時代に入りました。限られた予算の中でイギリス製の大きなスピーカーを購入し、真空管のプリアンプやパワーアンプの柔らかなサウンドを楽しみながら、性能のよいカセットテープで録音し、CD や LD を使って教科指導を行いました。ビデオカメラ、録音できる MDwalkman1 号機、DATwalkman を自ら購入して部活指に役立てました。杉戸高校に赴任してからデジタル機器全盛になりました。それが今は DVD の時代になったわけです。この 60 年間はアナログからデジタルへの流れでした。

ソフト面ではステレオレコードの時代に爆発的に名盤が売り出された時代でありました。私は他のジャンルはよくませんが、クラシックにおけるこの時代は天才的演奏家と世界的交響楽団が多くの名盤を出した時代でした。映像ソフト面では LD が売り出された頃が最も数多くの名盤が出た時代でした。名画、オペラ、管弦楽をはじめ貴重な LD を手にすることができました。

②コンピューターの発達

教職時代初期の 1960 年中期は、高価な大型コンピューターが発達普及してきた時代でした。とても高価で私が購入できる値段ではありませんでした。春日部高校の時代にワープロ専用機器が誕生したので、購入してしばらく使いこなしましたが、壊れたのでコンピューターを購入しました。私の世代ではコンピューターを使いこなす人はいませんでした。10 歳位下の人達が盛んに駆使しておりました。私はワープロ機能が使えればよいのです。ローマ字入力で一太郎を使いこなし、詳しい人達からいろいろな機能を教えてもらって、素人ながら私の世代では一目置かれる存在でした。

③シンセサイザーの購入

春日部高校の定期演奏会でホルストの「惑星」を演奏しました。自ら手書きで全曲吹奏楽に編曲し、コーラスをシンセサイザーで流したのが導入の始まりです。杉戸高校に赴任してから「可憐なる小さき歌」15 曲をシンセサイザーで自分で録音しました。

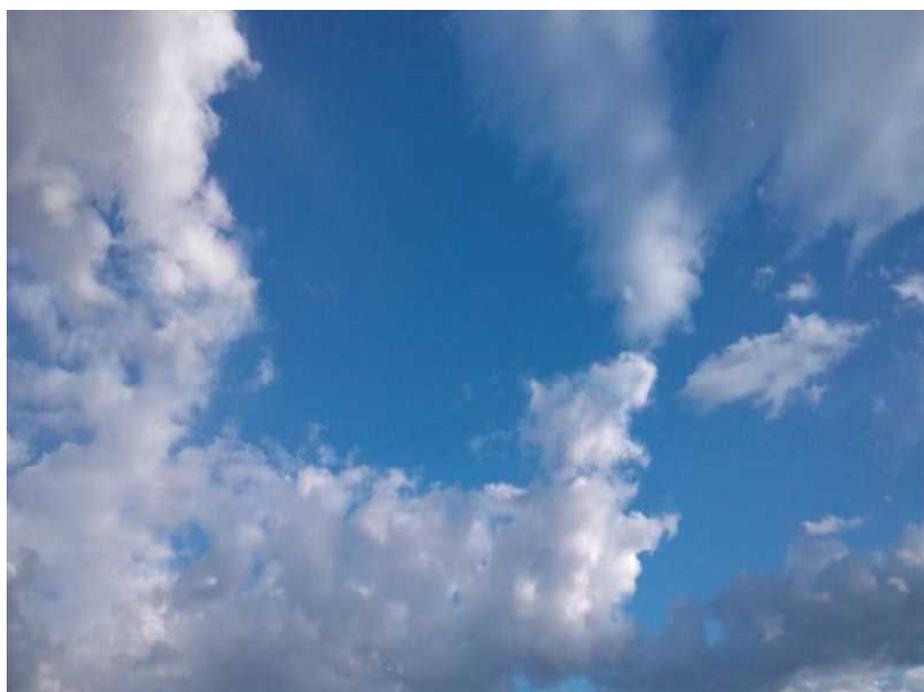
④楽譜浄書機能

本格的楽譜の浄書機能が手に入ったのは杉戸高校の時代 1983 年以後です。Finale を購入してキーボード入力をマスターしました。定期演奏会用に管弦楽曲を吹奏楽版に編曲したことで、入力の実力が相当アップしました。楽譜そのものの入力は吹奏楽編曲版の作成によってマスターできたということができます。

2000 年に歌劇「なよたけ」手書きによるピアノスコア版を製本しました。その後 2001 年に FinaleJ 日本語版が売り出されたことで、日本語の歌詞が入力できるようになって、私自身の作曲活動に使えるようになりました。プレイバック機能の充実は、作曲の才能刺激にも役だって、計り知れない効果があったと言えます。

現代曲の編曲や作曲に浄書機能が役立つ要素は、第一に拍子記号が 1 小節単位で変えられることがあります。さらに要望したいことは、微分音・四分音の表記ができて、微分音・四分音のプレイバックが可能になれば、当分は鬼に金棒だと思っています。表記の方法が確立されていない現段階では時期が早いのかも知れません。このように考えてみると、20 世紀に入って試みられてきた現代音楽の

記譜法はどうなってしまったのでしょうか。微分音表記は無論、私がそのような作曲をするかは別問題として図形化された楽譜や偶然性を取り入れた楽譜は現段階では影をひそめているように感じます。楽譜浄書機能の発達は、このように現代音楽の方向性にも多大の影響を与えているように感じます。



10. グループ「蒼」マガジン創刊によせて

2006.10.20

グループ「蒼」会員達が、音楽文化や作曲に関する日頃の考えを披瀝する目的で発刊されたのがグループ「蒼」マガジンです。作曲家は曲を作っていればよいわけですが、世の出来事にも一喜一憂しています。創刊の趣旨に関連させて、音楽文化や作曲に関する日頃の私見を書いてみたいと思います。作曲の原点は、心に浮かんだメロディーを書き留める行為から始まるのしょう。作曲の動機や目的はいろいろですが、世に生まれた曲はこうして生まれました。今年にはモーツァルト生誕 250 年で、多くの作品が演奏されております。またシューマン没後 100 年、ショスタコーヴィッチ生誕 100 年で、彼らの多くの作品も紹介されました。日本では明治以後百数十年近く経過して、数々の流行歌や戦後の劇映画・アニメーションの付随音楽の名曲集が紹介されるようになりました。これらの作品全てが、原点をただせば心に浮かんだメロディーを書き留める行為から始められたに他なりませんし、流行歌や付随音楽の数々もジャンルは違っても現代に作曲されたものでありましよう。クラシック音楽に話を戻しますと、明治以後日本の音楽界では、日本の楽器の現代化の試みや日本の楽器を現代音楽に取り入れた多くの作品が作曲され、また関連名著も数多く生まれております。日本に限らず現代音楽の課題は、一に聴衆を取り戻すこと、二に新たな楽式の誕生であると言われ続けてついに 20 世紀が終わり、二一世紀に入りました。歴史的にはいろいろな取り組みがされてきました。「ペーターと狼」のプロコフィエフ、ソヴィエトの天才ショスタコーヴィッチ、マイクロコスモスのバルトーク、十二音音楽のシェーンベルク他、数々の作曲家がいろいろな試みをしてきましたが、聴衆は現代音楽から離れていきましたし、確かにロマン派以後、新たな楽式は生まれませんでした。楽式は、例えばバロック時代はバロック音楽にふさわしい楽式が生まれ、古典派では古典音楽に相応しい楽式、ロマン派ではロマン派時代に相応しい楽式が生まれてきました。現代音楽の作曲家達はこれまでの音楽は崩壊した、あるいは行き詰まったと考えて、新たな方向を模索し続けて 100 年が経過し、21 世紀に入った今、聴衆は離れ、新たな楽式が誕生しないまま現在に至っているのではないかと感じています。さて、そこでグループ「蒼」は何をすべきなのでありましようか。グループ「蒼」への課題は即ち現代音楽界への課題に他ならないでありましよう。一人ひとりの現代音楽の作曲家が、もう一度原点に立ちかえって、静かに心に浮かぶメロディーを書き留めてみたらいかがでましようか。そこに何が見えてくるでありましようか。聴衆はモーツァルトを初めとした、現代音楽家達が行き詰まった過去の音楽だと考えているクラシック音楽に満足し、劇音楽や流行歌を楽しんで、現代音楽家達の悩みなど、全く意に介しておりません。現代音楽は二階に上げられ、ハシゴを外されていたような心境で日々悩んでいるのは、私一人かもしれませんが。しかし、これぞ聴衆を満足させる現代の音楽だという魅力ある音楽を作曲できれば、きっと聴衆との溝が埋められるでましよう。そのためには新しいリズム、新しいメロディー、新しいハーモニーに裏付けされた、新しい楽式を誕生させるという課題をクリアしなければならぬと感じております。こうして真正な現代音楽が誕生した暁に、これらの新しい音楽を糧として育った「時代の天才」の出現が必要なのかも知れませんが。



1 1. 記譜法—昔と今—

2006.10.21

全ての宗教音楽や宮廷音楽・世俗音楽は、国や時代に使われた文字や記号によって記録されています。五線譜以外の記譜は、現在でも全てこのような文字譜によって記録されています。古代遺跡の壁面に楽器が描かれていたり楽器が発掘されています。古代文字の解読によって、当時演奏されていた音楽も、その時代の文字譜の解読によって偲ぶことができます。五線譜は讚美歌合唱音楽とともに進化発達し、完成いたしました。初めは線が一本で、この線がGであったり、Fであったり、Cであったりしたわけです。このGやFやCがデザイン化されて現在のト音記号、ヘ音記号、ハ音記号になりました。一本の線が徐々に増えていって、最終的に現在の五線譜が完成したわけです。

現代になって「現代音楽の記譜法」が考案されました。グラフィックな楽譜やデザイン化された楽譜が生まれています。五線譜だけでは新しい音楽が表現しきれなくなったからでしょう。楽器以外の音の素材、半音よりも狭い「微分音」の記譜、リズムや拍子からの解放等、理由はさまざまです。

さて、文字が生まれて文明が飛躍的に発達しましたし、思考力が深まりました。同時に記譜法の発達は、音楽表現を多彩にできました。高い文明は格調高い芸術を育みました。歴史上に作曲家の名前がのぼるようになったのは、かなり時代が下ってからのことです。21世紀の日本は、60年間もの平和な時代、思想信条の自由、高い教育の普及、世界一の長寿国と、どれをとっても過去の如何なる時代よりも自由で平和に生きられる国になりました。日本の聴衆は高度な教育の普及によって高い審美眼をそなえるようになりました。日本の現代音楽作曲家も同じ恩恵を享受しているわけです。どのような音楽が真正な現代音楽なのか。日本の現代音楽作曲家にとって、今が正念場にいるような気がしているのは私だけでしょうか。

謡曲「杜若」楽譜

Handwritten musical score for 'Dwaga' (杜若). The score is written vertically in Japanese calligraphy. It includes the title '杜若' and various musical notations and lyrics.

箏曲「荒城の月」

Printed musical score for 'Arakawa no Tsuki' (荒城の月). The score is presented in a grid format with numerical notation. It includes a tempo marking of quarter note = 172 and a key signature of one sharp (F#).

二		六		二		七		二		七		二		〇		右
〇	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	右
三	四	、	五	、	九	、	九	、	四	、	四	、	五	、	〇	右
四	八	、	八	、	斗	、	斗	、	六	、	六	、	六	、	〇	右
五	、	、	二	、	十	、	十	、	五	、	五	、	五	、	〇	右
六	七	、	七	、	九	、	九	、	四	、	四	、	四	、	〇	右
〇	〇	、	〇	、	〇	、	〇	、	〇	、	〇	、	〇	、	〇	右
三	七	、	七	、	八	、	八	、	三	、	三	、	三	、	〇	右
四	八	、	八	、	七	、	七	、	七	、	七	、	七	、	〇	右
四	八	、	八	、	七	、	七	、	七	、	七	、	七	、	〇	右
五	八	、	八	、	七	、	七	、	七	、	七	、	七	、	〇	右
六	八	、	八	、	七	、	七	、	七	、	七	、	七	、	〇	右
七	七	、	七	、	四	、	四	、	二	、	二	、	二	、	〇	右
八	七	、	七	、	四	、	四	、	四	、	四	、	四	、	〇	右
七	六	、	六	、	四	、	四	、	四	、	四	、	四	、	〇	右
六	五	、	五	、	四	、	四	、	四	、	四	、	四	、	〇	右
五	四	、	四	、	四	、	四	、	四	、	四	、	四	、	〇	右
四	四	、	四	、	四	、	四	、	四	、	四	、	四	、	〇	右

1 2 . 伝統音楽の現代化に思う

「京の五条の橋の上…」と童謡に唄われる状景には、篠笛を吹きながら牛若丸が橋を渡ってくる姿がまぶたに浮かんできます。手塚治虫の火の鳥の黎明編だったのでしょうか、若者が笛を吹いている一コマでも笛の音が実際に聞こえてくるような場面があります。双方で聞こえてくるような気分にする笛の音色は、日本人にとって篠笛ではないでしょうか。日本人の内奥にある意識、組み込まれている DNA からとどけられる意識が篠笛の音として、現実には聞こえてくるような気分させるのではないかと思います。大陸から渡来した他の横笛は、竹を漆で固めてありますが、篠笛はそうした加工はしてありません。この自然なままの一本の竹から生まれる音色に日本人の心の故郷が存在しているように感じます。祭り囃子や里神楽の篠笛もいいですが、夜空に響き渡る一本の篠笛の音色にも大変魅力を感じます。

所用で千葉県野田市に行った折に、利根川と江戸川の合流地点に関宿城天守閣が再建されていました。最近多くの天守閣が再建され、城下町であったことが城址公園として大切に保存されています。天守閣は郷土意識や日本の美意識に通じるようです。日本画や浮世絵、伝統工芸は世界的に多くの画家や工芸家に影響を与えていますが、現代日本画壇や工芸の作風も大変に感銘を受けるものがあります。日本伝統音楽も琵琶や三味線、太鼓の音楽が諸外国で注目されるようになりまし、歌舞伎の海外公演も盛んに行われています。さてそこで、日本人の美意識を基調にした日本音楽の現代化と現代西洋音楽との協調共存の道を、さらに発展的に探れないものだろうかと考えるようになりました。それにはアジア諸国の民族楽器を含めて、日本の民族楽器の現代化が求められるのではないかと考えるのは私だけでしょうか。このことを可能にするには、西洋の民族楽器が改良されて管弦楽に登用された歴史があるように、アジアの民族楽器も管弦楽への登用を目的にした改良を試みるべきではないかと考えるのですが、いかがなものでしょうか。日本の民族楽器に眼を向けてみますと、尺八や箏は随分と改良が試みが進められてきたようです。篠笛や三味線・琵琶は、新たな楽器に発展させようという試みがされてこなかったのは、日本民族の DNA のなせる業なのでしょう、試みたけれど成果が上がらなかったのでしょうか。篠笛は十二音発音できますが、運指はフリユートには到底及びません。しかし日本人の DNA は篠笛の音と音楽に郷愁と憧憬の念を求めていることも事実でしょう。そこでフリユートの運指を用いて篠笛の音色をそのままにした改良を試みることができないかと思っています。三味線の弦数は三本ですが、当然楽器名は変えざるを得ませんが、試みにギターがそうであるように、4本にしてはいかがなものでしょうか。民族楽器は構造が単純です。単純なるが故の音色の魅力が民族の楽器として生き残ったのでありましよう。

民族音楽の現代化に目を向けたときに、西洋でなし得た楽器の改良を他民族でも試みるべき時代が到来したのではないのでしょうか。民族楽器が改良されて、楽器の性能と表現力が増したならば、きっといろいろなジャンルに普及していく可能性を秘めていると思うのは私だけでしょうか。



関宿城

13. 歌劇「ゆや」作曲と台本作成にあたって

1. 熊野という名前について

熊野という名前は次のようなものに使われています。

- ①紀伊半島の世界遺産「熊野」の山全体の名前
- ②能「熊野」の名前
- ③山田検校作曲箏曲「熊野」
- ④三島由紀夫作近代能楽集「熊野」

歌劇台本に適当な戯曲を探していたところ、三島由紀夫「熊野」を見つけました。初めはこれに飛びついて早速作曲しようと思いましたが、著作権のこと、ストーリーの展開、能「熊野」との比較の結果、自分で能「熊野」と三島由紀夫氏の「熊野」に基づいて、歌劇進行に相応しい新たな台本作成に踏み切りました。

能「熊野」とは、人の名前ですが紀伊半島の熊野にちなんだ名前であることは間違いないと考えています。しかし、能「熊野」に含まれた命名の意味には、紀伊半島熊野の満開の桜が重ねられているのではないかと私には思われます。だからこそ、能「熊野」がその名前とともに、今日まで能の代表作の一つとして愛されてきたのではないかと思われます。

2. 能「熊野」と歌劇「ゆや」の比較

(1) 登場人物の役割

能「熊野」の登場人物は次の通りです。

- 熊野（シテ）＝平安時代の歌人在原業平とその妻、紀有常の妹の間に生まれた子。
- 朝顔（ツレ）＝熊野の召使い。
- 平宗盛（ワキ）＝平安時代の武将。清盛の第2子。
- 従者（ワキツレ）＝宗盛の召使い。

歌劇「ゆや」の登場人物は次の通りです。

- 在原熊野＝平安時代の歌人在原業平とその妻（紀有常の妹）との間に生まれた娘。
- 朝顔＝在原家の召使い。熊野に友達のような思いを抱いている可憐な少女。
- 平宗盛＝平安時代の武将。清盛の第2子。
- 平清宗＝宗盛の実子。気だての優しい貴公子。

お分かりのように歌劇「ゆや」では能「熊野」の従者（ワキツレ）のかわりに平宗盛に実子である平清宗が登場します。その理由は、能ではシテが物語全体を支配して進行に絶大な意味をもち、ワキ以下はそれほど重要視されていない。しかし、歌劇では主役の活躍は当然のこととして、脇役達も物語と音楽の展開に大きく関わってくることをねらっているからです。したがって、歌劇では熊野の心の動きを本人が語るのではなく、朝顔や清宗がかわって話すことで、物語の展開に能の世界にはない、歌劇の躍動感が生まれることを期待しています。

(2) 歌劇「ゆや」の台詞

歌劇「ゆや」では単に能「熊野」の単なる現代語訳に留まることなく、能の世界と物語進行とを最大限に尊重しつつ、能「熊野」の持つ精神性を現代人にもある精神性に判りやすく訴えることに意を注ぎました。「熊野」という名前には、日本人の深層心理にある満開の「桜」への憧れが込められています。だからこそ能「熊野」が今日まで愛されてきたのでしょう。次の事柄に意を注ぎました。

①主役熊野の両親を初めとする登場人物の信憑性を日本の歴史をひもといて裏付けたこと
平宗盛と在原業平は、現代的に考えると生存年代がかみ合いません。だからといって、能「熊野」がだめなのだと行ってしまったら、元も子もありませんからこのまま受け入れ、生存年代がかみ合っているものとして、史実に則ってリアルに表現しました。

②熊野の恋人存在についても、節度をもって接していること

恋人の存在に関する台詞を清宗に語らせます。在原家の家柄を宗盛に語らせることによって、主人公熊野が貴人の生まれであることを初めに設定することができました。このことによって、歌劇「ゆや」が格調高いものになりました。

③能「熊野」の物語進行が忠実に再現されることを目指したこと

この歌劇は、能「熊野」を現代に蘇らせるべく、その台詞づくりに意を注ぎましたが、反面能「熊野」の物語進行にあたっては、原作に忠実に従っております。

(3) 伝統芸能としての側面の尊重

現代能歌劇「熊野」は現代音楽です。現代音楽は可能性と表現の広がり求めて、常に変化していくものだと感じている昨今です。現代音楽は日本にとどまらず、世界的に見ても現代音楽の作風の変化が、生き物のように続いていると考えます。

個々の作曲家は、己の作品の可能性と表現の広がり求めて、常に新作を発表できる場を持つことは肝要であると思います。

現代にあって、古典芸能である能は、一般の日本人にとって「過去の芸能」になってしまった感をまぬがれないと考えています。その要因を私なりに考えると次のようになります。

①物語進行がおそく、現代のスピード感覚にマッチしていない。

②昔の言葉で、現代人に意味が伝わらない。

良いところもありまうす。

①能舞台は世界的に見ても芸術的完成度の高いでしょう。

②演目が豊富です。

③能囃子は簡素で音楽的に完成された演奏形態です。

一般の演奏会場での上演と併せて、能舞台をそのまま使って歌劇を上演することは、負の側面が大きくなるとも考えられますが、伝統芸能である能の側面を可能な限り導入することは、歓迎できることだと考えます。

私はこの観点に立って以下のようにこの歌劇のステージを設定しました。

時と所＝平安時代の京都、桜花爛漫の季節。

舞台＝舞台背面は「鏡板」に替わる満開の桜の垂れ幕がある。垂れ幕の前には「出囃子や後座」にならって25名の演奏者が椅子にかけて列ぶ雛壇が設置されている。

管弦楽＝Fl. Ob. Cl. Fg.各1。弦5部(Vn.1 Vn.2 Vla. Vc.各2 Cb.1 Perc.2)。Piano Harp各1。

混声四部合唱＝各声部2名 計8名程度。

3. 歌劇「ゆや」台本作成の姿勢

私の歌劇「ゆや」の台本作りの姿勢はどのようなものになるのでしょうか。三島由紀夫氏の近代能楽集「熊野」の著作に関する姿勢については、作者あとがきに「能楽の自由な空間と時間の処理や、露わな形而上学的主題などを、そのまま現代に生かす」と述べています。また同文の中で、郡虎彦氏の能に取材した戯曲についての三島由紀夫の見解は、「当時としてはきわめて先駆的な、ユニークな小傑作であり、能の原作そのままの時代の物語を、ホフマンスタールの色濃い影響のもとに、世紀末趣味にあふれた近代的一幕物にアダプトした」と述べています。

日本人の手による戯曲を歌劇化作品にするにあたって、作品選びのねらいとするところは、一つは、すべての日本人が昔から持ち合わせている共感性を題材として取り上げることであり、二つ目は日本人の生き様をテーマとして取り上げて、ステージで葛藤させることであります。歌劇「ゆや」の台本作りの姿勢は、前者の一つ目は満開の桜の花見に対する日本人の共感性であり、二つ目は、能「熊野」の時代や人物、物語の進行をそのままにして、現代の日本人の考え方や感性に、熊野の内面の心情を分かり易く語りかけるところにねらいを定めました。この観点から見ると私の日本人の手による戯曲を歌劇化作品にするにあたってのねらいにぴったりの作品ではないかと考えています。その意味で歌劇「ゆや」台本では、三島由紀夫氏が近代能楽集で行ったような革新的な要素はありませんが、主人公熊野の心情を現代化して見せる点では共通する一面を持っているのではないかと考えられます。

三島由紀夫の「熊野」の存在を知りながら、何故この戯曲「熊野」を歌劇化作品に使わなかったのか。歌劇はその性格上、「三島由紀夫氏流にそのまま現代に生かす」必要がないと感じたからに他なりません。歌劇では、むしろ時代や人物、物語の進行をそのままにして、現代の日本人の考え方や感性に、熊野の内面の心情を分かり易く語りかける方が、上演効果が上がるのではないかと考えられました。歌劇は一面において優雅さを求めます。この観点からすると、能「熊野」の時代背景は歌劇に大変適切であります。熊野地方は世界遺産に登録された今日、神話の時代から神々が鎮まる特別な地域であると考えられてきた所ですから、歌劇化するにあたっては「三島由紀夫氏流にそのまま現代に生かす」よりも余程上演効果が上がるのではないかと考えました。

このような観点から歌劇の台本を作るにあたって、次のような事柄に留意いたしました。

①在原熊野は、能「熊野」の人物像に基づいて高雅で格調高い雰囲気を一層際立たせるように配慮しました。室町時代の能「熊野」では、能そのものが上流階級の芸術でしたから、熊野を取りわけ高貴な存在を強調する必要はありませんでした。この熊野の扱い方をそのまま現代に置き換えると、現代では主人公熊野の品性が損なわれ、歌劇作品そのものが品格を失う危険性が生じると考えられます。こ

のことが能「熊野」を現代化する上で最も重要な留意点であると考えました。

②先にも述べましたが、従者を宗盛の実子清宗におき換えました。能「熊野」台本と歌劇「ゆや」台本を比較すれば、その違いがはっきり分かるのではないのでしょうか。「文の段」と呼ばれているくだりで、清宗の父宗盛に対しての反論に近い言い方は、当時の武家社会では、あるいは許されない言動のように感じながらも、あえて清宗に言わせましたが、この清宗の反論に近い言動によって、熊野の心の内を一層際立たせることができたのではないかと考えています。この部分の清宗の台詞を従者におき換えることはえは絶対に不可能でありましょう。

③熊野と宗盛の人物設定は、基本的には変えてありません。ただ、熊野の人間性を際立たせるために、熊野が宗盛に対して言う台詞に、清宗が父に対して言う言動と同じく、当時の武家社会では、あるいは許されないであろう物言いがあります。ちょっと強すぎるかなと思いつつも熊野の心の内を現代の聴衆に理解してもらうために、あえて言わせました。

この時代背景に基づく能「熊野」を、私の現代音楽作曲法と考案した日本語の明確なイントネーションによって、歌劇「ゆや」として現代に蘇らせようという試みなのであります。



14. プライベートホームページ公開にチャレンジ

少なくともプライベート・ホームページ公開を一念発起して大分過ぎた。我ながら執拗に取り組んでいる。インターネットで公開されているプライベート・ホームページをいろいろ拝見させて頂いた。それぞれに、素晴らしい内容になっている。私のホームページは、作曲家としての公開の特徴を持たせたいと思う。

1. ページの掲載原稿は、現役時代から書きためていたものを使うことにした。

現役引退しても書き加えて、いつか機会があったら出版しようと考えていた原稿もある。しかし、出版しても読んでくれる人もいないだろう。自分では、書いてある内容は中味のあるものだと思うので、今回プライベート・ホームページ公開に盛り込むことにした。

2. 一切お金をかけず、プライベートホームページ公開にチャレンジ。

はじめに、ワープロ・ソフトに書きためた原稿を HTML に編集した。終わった段階で、インターネットの「ホームページの作り方」をプリントアウトして取り組んだ。行き詰まったことは、

①リンクの設定。

②音楽の公開方法だった。

リンクも、音楽の公開方法も、インターネットの「ホームページの作り方」で説明している。しかし、具体的作業に取り組んでみると、「リンク」や「音楽ファイル作成」で、先に進むことができなかった。

2. やむを得ず「ホームページ・ビルダー 13」のCD付の本を購入した。

これで一切お金をかけないという目標は挫折した。2500円前後の出費である。CDをPCにインストールしたが、「ホームページ・ビルダー 13」が「スタート」の「プログラム・ファイル」欄に出てこない。エクスプローラでCDの内容を見たが、セットアップ・フォルダーがないではないか。仕方ないから返品。別の「ホームページ・ビルダー 13」CD付書籍を購入した。これもCDをPCにインストールしたが、やはり「ホームページ・ビルダー 13」がプログラム欄に出てこない。これを3回繰り返した。結果が皆おなじなので、書籍で先に進めることを断念した。

3. 次は「ホームページ・ビルダー 13」をインターネットで購入した。CDをPCにインストールした。さすがに「ホームページ・ビルダー 13」が「スタート」の「プログラム」欄に出てきた。いろいろの手間がかかった。例えば、ワープロ・ソフトで作った HTML 文書は「ホームページ・ビルダー 13」で、初めから作成しなおした。二度手間だったが、ホームページ・ビルダー 13の方が一段と美しく、見やすくなったと感じている。

①「リンク」の方法は、ホームページ・ビルダー 13のマニュアル通りに作業を進めて、終わってみれば簡単だった。

トップページのファイル名を index、各ページのファイル名を contents、contents2 とすること自体知らなかったではないか。ホームページ・ビルダー 13には、それぞれのテーマ・ファイルをトップページとリンクさせる手順が明確に整備されている。

②「音楽」の公開方法が難問だった。RSS ファイル、ポッドキャストとは何か。PCインターネット公開に使用する適切なプレイヤーは何か。mp3とは何か。mp3録音データをファイルにする方法は。このような事柄をインターネットで調べた。ホームページ・ビルダー 13 入門編では、音楽を公開する方法が分からず「バージョンアップ編」を購入するしかなかった。これで2万円強の出費となった。

4. 「バージョンアップ編」購入によって、音楽のインターネット公開の概要がつかめた。

RSS ファイル、ポッドキャストもわかった。ホームページ・ビルダー 13で作業を進める前に、インターネット公開用の「音楽」を、デジタル録音ファイルにしなければならない。何とか手持ちのアプリケーションで、可能な方法を見つけて作業した。RSS ファイルを設定して、音楽もリンクした。

5. いよいよサイトの転送だ。

今は、サイト転送できない状態になっている。経過は次のようなことだ。

(1) ホームページ・ビルダー 13のマニュアルにしたがって、インターネットに接続してから、サイト転送設定を試みたが送れない。エラー・メッセージは、FTP アカウント、パスワード、サーバー名が違います。

プロバイダーに電話で確認した (TEL:009192-33)。間違っていない。

(2) 再びホームページ・ビルダー 13のマニュアルにしたがって、インターネットに接続してから、サイト転送設定を試みたが、やはり転送できない。今度のエラー・メッセージは、

①ダイヤルアップ接続などで、インターネットに接続されていますか。

②サーバー (IP アドレス) が正しく接続されていますか。

③プロバイダーなどのサーバーが停止している可能性はありませんか、という内容だった。

(3) **ホームページ・ビルダー 13 に電話で確認した** (TEL:0120-04-1992)。

一度目は、電話に出た人と、再度サイト転送設定を試みた。前回と違ったことは、転送先フォルダの参照をクリック、スラッシュを入れたこと。詳細をクリックして、表示されている内容確認。「接続を確認する」をクリックして「転送先に接続されています」と表示されたことを確認できた。「転送されるまで、教えてくれ」と頼んだか、断られた。再度、転送を試みた。やはり転送できない。

二度目の電話は、電話に出た人と、二通りのサイト転送設定を試みた。

①新しいサイト転送設定をして試みたが、結果は同じだった。

②インターネット Explorer 最上段にプロバイダーと FTP アカウントを打ち込んで、接続されていることが確認できた。ホームページ・ビルダー 13 には、何ら問題点は見つからない。

(4) 再び**プロバイダーに電話で確認した** (009192-33)。今までの事情を説明した。

「無料のセキュリティーが強くかけてあるので、弱くするから、30 分経ったら再起動して、サイト転送を試みてくれ」とのこと、言われたとおりに試みたが、結果は同じだった。

(5) 再び**プロバイダーに電話で確認した** (009192-33)。

「もう、打つ手はない」という。仕方ないから、訪問サポート受付 (0120-724-685) を教えてもらい、7 月 15 日 AM10:00 ~ PM1:00 訪問を予約した。

マニュアルに「サイト転送でセキュリティー警告が表示されたときは」という HINT が記載されている。私の場合、この警告が出たわけではないが、Windows セキュリティーの「ブロックを解除する」ボタンをクリックしてみることは、大いに考えられることだ。セキュリティーの覧を見たが分からない。訪問者に話してみよう。

(6) **訪問サポートの結果** エラーは、次の三つだった。

①音楽の容量が大きい。大和撫子が mp3 ファイルで 100MB 近くある。mp3 ファイルにすると 1/10 に減るはずとのこと。②ホームページ・ビルダー 13 のサーバー名が違っていたので、手動で書きかえたとのこと。③ディスクサイズを 10MB に変更するとき「変更」ボタンをクリックしなかった。今回 15MB に変更。

※これで転送できた。今後は原稿書き換えは「前回転送以降に更新されたファイルのみ転送する」ボタンをクリックして、サイト書き換えを行う。

(7) **今後行う変更**

結局音楽ファイルが積み残しになっている。大和撫子 mp3 を圧縮にして、転送しなければならない。インターネットで使う音楽プレーヤーは、itunes である。アップル社銀座店に行って、スタッフの方に質問した。回答は「mp3 を圧縮することは不可能だ。容量が大きいならば、音楽を短くするしかない」だった。

itunes ヘルプをもう一度読みなおした。インターネット公開用の「音楽」を「デジタル録音ファイル」ではなく、CD 録音して itunes に入れてみた。100MB 近い音楽が 4.24MB に見事に圧縮された。これで音楽配信ができる。

できれば、楽譜を一曲、PDF ファイルにして配信したい。楽譜浄書ソフトは、PDF ファイルに変換できないので、インターネットに「楽譜を PDF ファイルに変換」と文字を入れて「検索」した。

見事に楽譜を PDF ファイルに変換できるソフトを、無料でダウンロードでき、一曲配信した。

私のホームページが完成できた。

(8) **検索エンジン**

URL からホームページを見る人は、ほとんどいない。面倒だからである。現在では「検索」に文字入力して、目的のサイトを開く方法がほとんどだ。この方法を取り入れるには「検索エンジン登録」という手続きが必要であることがわかった。

「検索エンジン登録」と文字入力して「検索」をクリック、無料で信用できそうなサイトを探した。一つ見つけた。一つ見つけたが結果が反映されなかった。それなりの必要経費が必要であることがわかった。

15. 現代能歌劇「松風」について

能は武士の時代に盛んに行われた演劇・舞・音楽が一体となった日本の優れた古典芸能です。「熊野・松風と米の飯」と言われます。春の「熊野」、秋の「松風」は「米の飯と同じくらい好きだ」という意味でしょう。現代能歌劇「松風」は「熊野」に続いて同名タイトルの原作能を現代歌劇によみがえらせた新作歌劇二作目です。

世阿弥の上三位の曲

世阿弥は自分の創作した曲にも優劣があることを認めています。世阿弥がよい能だといっている能は、井筒・通盛・松風村雨・蟻通・忠度などですが、能の「九位」にあてはめれば、第一位から三位までがすぐれた能「上花」であるといえます。「井筒、上果（花）なり。松風村雨、寵深花風の位か。蟻通、閑花風ばかりか」。

原作「松風」の登場人物とあらすじ

登場人物

松風・村雨姉妹＝須磨に流罪になっていた在原行平に愛された汐汲み姉妹です。汐汲みにきた「もしほ」と「こふじ」に出会い、行平はそれぞれに「松風」・「村雨」と名付けて愛しました。3年後、行平が因幡の国司となって赴任することになり、姉妹と悲しい別れをすることになりました。

僧＝西国行脚を志す僧です。

須磨の浦で旅の僧が短冊の付いた松を見て、土地の人にそのいわれ尋ねます。その松は須磨に流罪になっていた中納言行平の愛人、松風と村雨姉妹の跡と知らされます。弔っていると日が暮れたので、汐汲みから戻って来た二人の海女が住む塩屋に一夜の宿を頼みます。一度は宿を断ったものの、僧と知って泊めます。

松風と村雨の「いわれの松」の話に涙を流す姉妹を不審に思う僧に、二人はその亡霊と明かし、行平への思慕を綿々と訴え、形見の衣を纏って松を巡って狂い舞います。姉妹は僧に回向を頼み、消え失せます。僧が目覚めればその声と思ったのは松風の音でした。

現代能歌劇「松風」登場人物とあらすじ

登場人物

在原行平＝平城天皇の皇子阿保親王の次男。在原業平は弟。臣籍降下して在原氏を名乗ります。古今和歌集によれば文徳天皇のとき、須磨に蟄居を余儀なくされました。蟄居の理由は不明です。須磨に流されていたとき、松風、村雨という姉妹の海女を愛したという伝説が謡曲『松風』に伝えられています。

藻汐・小藤姉妹＝須磨浦が荒磯で通行困難だった頃、多井畑を通り、下畑・塩屋から播磨に通じていました。「もしほ」と「こふじ」は多井畑村の村長の二人娘です。能「松風」では汐汲み姉妹という設定になっています。

第一場「立ち別れ」

秋、須磨の浜辺に月が上がった日暮れ時、在原行平のところに藻汐と小藤が汐汲みから帰って来ます。行平は姉妹に因幡の国司となって赴任しなければならなくなったと伝えます。姉妹は「三人で一緒に暮らしていたい、行平様がいらっしやらない須磨になど生きていく意味がない」と訴えますが、「立ち別れ 因幡の山の峰に生うる 松とし聞かば、今帰り来ん」と和歌を詠み、磯馴松の小枝に、狩衣をかけて赴任してしまいます。姉妹は「これは夢か。夢ならすぐに覚めておくれ」と途方に暮れて、前に暮らしていた塩屋に戻る途中、姉の藻汐があまりの悲しみのため落命します。妹の小藤は「お姉さま、しっかりして下さい。お姉さまー！」と悲痛に叫ぶ中、幕が下ります。

第二場「40年後の塩屋」

登場人物

藻汐・小藤姉妹＝第一幕の終わりで、悲しみのあまり藻汐が落命し、小藤も後を追うように命を落としてから40年後、姉妹は須磨の浜辺の荒れ果てた塩屋に亡霊となって棲んでいます。

僧＝西国行脚を志す僧です。

在原行平＝75歳で他界し、亡霊となって松風・村雨姉妹のところに現れます。

あらすじ

40年後の秋の夜、須磨の浜辺の荒れ果てた塩屋に棲む藻汐と小藤のところに旅の僧が一夜の宿を頼みます。一度は断りますが僧と知って「夜はさぞお寒いでしょう」と招き入れます。

僧は「わくらばに問う人あらば須磨の浦に藻汐たれつつ侘ぶと答えよ」と在原行平の和歌を詠み、松風と村雨姉妹のいわれのある松にお経を唱えたと語ります。姉妹は「あの松の苔の下で、お経を唱え

て頂きました姉妹で、涙で袖を濡らしながら過ごしてまいりました」と答え、「成仏の難しい女の身である上に、甲斐のない身分違いの恋をしてしまった罪の深い姉妹です。どうかご回向ください」と頼み、藻汐は「寝ても覚めても、後から後から恋心に責められて涙に沈む」と訴えるのです。そこに在原行平の亡霊が現れて「立ち別れ 因幡の山の峰に生うる 松とし聞かば、今帰り来ん」。と謡い「ようやくお前たちのところに帰ることができた」と語ります。姉妹は「どうか私たち姉妹が、行平様に従って天に昇れますようにご回向ください」と再び願い、僧は回向します。僧は「夢を見ていた。何と寂しく、悲しい姉妹の夢であったろう」をつぶやき、再び西国行脚に旅立つのでした。

能「松風」と歌劇「松風」

現代能歌劇「松風」では在原行平が登場します。生前の物語第一場「立ち別れ」で在原行平が登場し、藻汐と小藤姉妹に行平が別れを告げます。原作能「松風」の本編である第二場「40年後の塩屋」でもクライマックスに行平が亡霊となって登場します。原作には登場しない行平を現代能歌劇に何故登場させたのか。理由の一つ目は、物語を分かりやすくするために、時の流れに従って「松風」のストーリーを組み立て直したこと、二つ目は、松風・村雨を本当に愛していた行平が亡霊となって登場し、僧が唱える回向の中を先になって、姉妹が後に続く形で退場することによって、この悲しい恋の物語が美化され、身近で説得力を持って聴衆に訴えることができるのではないかと考えたからです。三つ目は、行平（テノール）を加えることによって歌劇の中で四重唱を成立させることができるからです。

能歌劇「松風」の台詞と音楽

現代能歌劇の創作的価値は、能を現代によみがえらせるところにあると私は考えています。現代能歌劇「松風」は原作能「松風」の単なる現代語訳に留まることなく、能の世界と物語進行とを最大限に尊重しながら、能「松風」の持つ美しい幽玄の世界を現代人の精神性に判りやすく訴えることに意を注ぎました。

「松風」は二人姉妹の非常に悲しい恋の物語です。幽玄が、美しくも現実味をもって日本人の深層心理に迫って来ます。「松風」が今日まで名作として愛されてきた理由はここにあるのでしょうか。

伝統芸能の現代化

現代にあって、古典芸能である能は、一般の日本人にとって「過去の芸能」になってしまった感をまぬがれないと考えています。しかし良いところもあります。

①能舞台は世界的に見ても芸術的完成度の高い舞台でしょう。

②能は演目が豊富です。

③能囃子は簡素で音楽的に完成された演奏形態です。一般の演奏会場での上演と併せて、能舞台をそのまま使って歌劇を上演することは、歓迎できることだと考えます

台本づくりの姿勢

戯曲を現代能歌劇台本にするにあたって、作品選びのねらいとする一つ目は、すべての日本人共通のDNAに裏付けされた共感性にもとづいて題材として取り上げることであり、二つ目は日本人の生き様をテーマとして取り上げて、ステージで葛藤させるところにあります。能歌劇「松風」の台本作りの姿勢は、前者の一つ目は秋の月と松に対する共感性であり、二つ目は、能「松風」の時代や人物、物語の進行をそのままにして、現代人の考え方や感性に向けて、松風である藻汐の内面の心情を分かり易く語らせるところにねらいを定めました。この観点から見ると日本人の手による戯曲を歌劇化作品にするにあたっての私のねらいにぴったりの作品ではないかと考えています。

私の現代能歌劇の第一作「熊野」の原作は、満開の「桜」への憧れが込められたきらびやかな能です。「熊野・松風と米の飯」と並び称される「松風」は世阿弥の上三位の曲であり、秋と悲しい恋を題材にしていて、「熊野」と「対」にするに相応しい題材であると考えます。

台本に使われている言葉

須磨（すま）＝摂津国の地名。現在の兵庫県神戸市須磨区にあたります。瀬戸内海を臨む須磨の浦で名高い白砂青松の景勝地です。

因幡＝因幡の国庁は、現在の鳥取県岩美郡国府町にあります。855年の春、行平が因幡守に任ぜられ、赴任地へ向かうときに、送別の宴で詠んだ挨拶の歌といわれます。

藻汐（もしお）＝海藻を使った製塩法で、日本における塩作りの原点です。古代・万葉の「藻塩（もしお）焼き」は、塩田による塩づくりが始まる以前に行われていました。

立ち別れ＝「ここでお別れして因幡の国に行くが、あの因幡の山の峰に生えている松の名のように、あなたがわたしを待っていると聞いたなら、すぐに帰ってきます」

磯馴松＝磯馴と書いて“そなれ”と読みます。地名の場合“いそなれ”と読むそうです。

狩衣＝野外狩猟用の服で、着用も簡便で運動性も高いものでした。一般公家の日常着として愛用されま、次第に院参にも用いられ、時代を経るに従って公服としての色彩も増してきました。

三途川＝冥界。此岸（現世）と彼岸（あの世）を分ける境目にあるとされる川。一般的に仏教の概念の一つと思われがちですが、実際は仏教に民間信仰が多分に混じって生まれた概念です。

回向＝自分自身の積み重ねた善根功德を相手にふりむけて与えることを回向といひます。回向の心をもって修行する段階を十に分け十回向位として、悟りへの重要な修行過程とします。

彼岸＝極楽浄土は西方のはるか彼方にあると考えられています。西方に沈む太陽を礼拝し、はるか彼方の極楽浄土に思いをはせたのが彼岸の始まりです。生を終えていった祖先を供養する行事として定着しました。

帰依＝勝れたものに対して、身心を帰投して依伏信奉することです。元々の意味では内容が説かれ、盲信との区別が強調されます。「自帰依自灯明、法帰依法灯明」という場合の「帰依」は、「我は（仏）法を拠り所にする」という意味です。

能「熊野」と「松風」の歌劇化について

「熊野」は三島由紀夫氏の近代能楽集で知りました。歌劇台本に適当な戯曲を探していたところ、三島由紀夫「熊野」を見つけました。能「熊野」に含まれた命名の意味には、紀伊半島熊野の満開の桜が重ねられているのではないかと私には思われます。だからこそ、能「熊野」がその名前とともに、今日まで能の代表作の一つとして愛されてきたのではないかと思います。

「熊野・松風と米の飯」という言葉は後で知りました。桜を愛でる「熊野」、秋の名月を愛でる「松風」は「対」になっていますから、「松風」の歌劇化も価値があると思います。

「熊野」「松風」台本を作成しながら強く感じたことは、平安時代はかくも心中深く仏教が浸透していたのかということです。仏教文化が日本を一変させたと同時に、仏教思想が人生そのものとなっています。神仏混合の風習を生活習慣の中で単純に受け入れているだけの私は、登場人物が語る言葉一つ一つに感動し、自分の心根と平安人の心根を比較して、そのギャップの驚き考えさせられます。歌劇成功の成否は物語と詠唱の素晴らしさで決まると言われます。「熊野」は春の桜を題材にして聴衆の心をとらえることができるだろうと思います。「松風」は冒頭の秋の名月を題材にしていますが、中心は藻汐・小藤姉妹の悲恋です。季節感では力不足の「松風」が、悲恋で聴衆の心をつかむことができるかに「松風」成否がかかっています。世阿弥の原作は上三位の曲として成功しています。現代能歌劇の成功は、原作をベースにした台本と作曲の力量にかかっているのでしょう。



16. 一期一会

秩父第二中学校勤務の頃にお世話になった先生方とは、年賀状のやりとりさえなくなってしまった。秩父第二中学勤務の頃から 50 年近く経っているから仕方のないことなのだろう。あの頃から現在までの経緯で人々との関わりの様子は、随分と変わってきている。

私が作曲の仕事をしていなければ、今では人々との関わりなど、ほとんどなくなっているはずなのだろう。作曲活動をやっているから、何とか人々との関わりが保てているのだと思う。

秩父第二中学校勤務の時代の人たちは、とうに年を取って、50 年前に世を去った父と同じく、現世にいないのかも知れない。現役時代には忙しく、年賀状が途絶えても、その人のことを見過ごしてきた。関わりがなくなった方々が多くなったことを、落ち着いて考えることができるようになった今になって、振り返ってみれば遠い過去の出来事になってしまっている。

たったこれだけのことなのだが、平凡で当たり前のことなのだが、私にとってこのことは、初体験としての驚きがひとしおなのである。万物流転か。よく考えてみれば、もうあの頃の人たちとの関わりは、人間構成は、今後絶対に起こらない。「今を大切に生きる」というこの平凡な言葉も、実は、実に大切な言葉として、心にしみこみ、響いてくる。

人々が自分の前から消えていくのだ。両親、兄弟、親族、大学時代の恩師。秩父二中時代の校長先生、私の中学二年の担任で、教師になってから隣のクラスで担任同士でご指導頂いたあの先生…。杉戸農業時代の農場長、草花主任、野菜主任。今は現世にいない。皆この世の人々でなくなってしまった。しかし、私の心の中には、はっきりと記憶の中にある。この世の中はそれで良いのだろう。多分…。

現在、グループ「蒼」の会員 7 人と作曲活動を通して、仲間として交際している。この交際もあと数年かも知れない。この関わりを大切にしなければいけないのだ。一期一会という言葉の意味も、この年になってみれば重みを持って響いてくる。

杉戸高校時代現役の頃から 12 年間交際を続けてきた二人の先生は、こうしてみると実に若い。私にとってみれば、考え方が若々しいのだ。人々との関わりをぞんざいに始末しようという考え方が見え見えだ。私が現役を引退して 12 年目に入った現在、もうそろそろ小菅との縁を切っても大したことはない。「縁を切りたい」と考えていても不思議ではないし、そう見える。まだ若い人間として、当然のことではないのか。実際、自分自身がそうだったからだ。「腐れ縁などくそ喰らえ」くらいにしか考えず、己にとってプラスにならない、愚にもつかない関わりなど、思いっきりぶった切ったことがある。私が長年関わってきた教職員とは、自分自身を含めて、何と愚かな集団であったことだろう。自分の周りだけがそうだった。いや自分がそうだったのだ。そういえば、この日記帳に書かれた大半が、愚にもつかない教育者達と思えた人たちの、愚かだと思えた考え方を書き連ねてきたボヤキの連続ではなかったか。今現在。埼音協の方々との関わりを大切にしなければいけない。あたら疎かに扱ってはならぬ。

この世の関わりを大切に、生きる意味と価値を大切に生きていこう。ヤブコウジ、センリョウ、マンリョウは毎年赤い綺麗な実をたくさんつける。一本の木に毎年同じように赤い実をつける。よくよく考えてみれば、その赤い実一つひとつは、毎年ちがう実なのだ。同じ所におなじようについた実も、去年と今年の実がちがう実だ。私は秩父第二中学校に三年しかいなかった。私が担任した生徒達も三年で高校生になっていった。職員室で机を列べた先生方もいろいろな学校に転勤した。一瞬一瞬を大事に生きていこう。センリョウがいい実をつけるように、いい作曲をしよう。いい作曲活動をしよう。私にとって、そのことが人々との関わりの中で、一番大切なことなのだから。



17. 調性感覚について

20世紀に無調音楽が生まれて、現代音楽と呼ばれるようになった。現代音楽は12音の密集和音、トーン・クラスター、12音音楽などがその代名詞に使われているのだろうか。

現代人にとって調性感覚は不要なのか、無用なのか、無視されているのか、それとも調性感覚に反発しているのか。だが調性感覚は人類が持って生まれた本能に付随している感覚なのである。だからその証拠に、世の中に流れている99.9%は調性音楽ではないだろうか。

例えば意識的に無調音楽を書いても、その音楽を人は必ず調性感覚をもって聴く。どんなに調性から離れようとしても調性感覚は聴く耳につきまとっている。例えば全音符で一定の高さの音を伸ばしていると、聴く側は本能的調性感覚を持って、次にくる音を予測し期待する。調性があるなしに関わらず、その期待する音の移り変わりは一曲終わるまではてしなく続く。無調音楽を聴いた場合、持って生まれた調性感覚をもって常に次の音を期待し続けた聴く側の耳の結果はどうか。調性感覚は常に裏切られ続けて、一曲を聴き終わったときには「不可解」という一語が残りはないだろうか。

一度・四度・五度・八度の完全協音程、三度・六度の不完全協音程からなる過去の和声感覚で、聴衆は作曲者の感情をくみ取ってきた。12音の密集和音は、二度音程の密集であり、その和声を聴かされても音楽から感情をくみ取りにくい。くみ取りにくい音楽をもって作曲者は何を訴えてきたのか。

調性感の裏切りは、なぜ生まれたのだろうか。二度にわたる世界大戦で大虐殺があった。凄惨をなめつくした結果として、必然的に12音のトーン・クラスターが生まれた。また殺人をテーマにしたオペラや、冷徹な主人公が登場する映画に無調音楽が使われてきた。

今や2013年、21世紀に入って10年以上が経過している。第二次世界大戦が終結して68年の歳月が流れた。戦争を知らない子供たちは12音のトーン・クラスターをどのように感じているのだろうか。斬新な響きか。歴史的遺物か。快適な響きか、不可解な和声か。

人類は、次なる音楽を求めているのではないだろうか。古典音楽から近代現代にわたって行われてきた音楽ではなく新しい音楽を。その音楽は調性感覚をどのように扱っているだろうか。

ルチアーノ・ベリオ (Berio Luciano) 作曲 サイクルス

o — Circles. 24 ページ
Edition A. G., Wien

18. シンメトリー

平面や空間で、左右・上下・回転軸に均一であることを「対称」、又はシンメトリーと呼ばれている。アラベスク模様は一点を基軸にしたシンメトリックな模様だから好まれるのだと思われる。音楽のジャンルでのシンメトリーは、どのようなものを指すのだろうか。私は長年考えてきた。最近になってようやく気づいたことが一つある。それはリズムや旋律の「繰り返し」が、音楽ジャンルでいうシンメトリーに該当するのではないだろうかと思い当たったことである。

歴史的にシンメトリーを形作る作曲技法は、いろいろ試みられてきた。逆進攻、反進行がそれであると思う。これら逆進攻、反進行の試みは聴く側には、それと気づかせるだけの効果をあげることがむずかしく、平面や空間でのシンメトリー効果の認識度と比べると、知名度もほど遠いものであった。

ところが、それが音楽のリズムや楽節の「繰り返し」効果が、平面や空間でのシンメトリーに該当するのではないかと考えると、話は変わってくる。音楽ジャンルの「繰り返し」効果は昔から行われていることである。音楽ジャンルでは、この「繰り返し効果」こそが、平面や空間でのシンメトリーに相当する概念ではないのだろうか。

言葉の「二度繰り返し効果」も、これに相当する事柄だと思う。「小さい、小さい」と繰り返す。「あかい、あかい」と繰り返す。このように「繰り返す」ことで、言葉がより美しく、より明るく響かせることができ、そこに音楽的リズム感と快い安定感や親近感が生まれる。

先に述べたように音楽ジャンルでの「シンメトリー」は、逆進攻、反進行であると考えられて、行われてきたのだと考えられる。だから逆進攻や反進行という技法が誕生したさえ考えられる。反進行や逆進攻は、音楽的効果は上がっているが、それはシンメトリー効果ではなくて、別の意味で音楽をより高度に立体的に形作る効果の方が大きいと思われる。

音楽の「繰り返し効果」は、すべてのジャンルで昔から潜在的に、且つ意識的にも行われてきた。

この「繰り返し効果」こそが平面や空間で行われているシンメトリー効果に匹敵する効果、すなわちより美しく、より明るく、より安定感をもって音楽を奏でる効果を上げることができる「現象」ではないかと考えられる。

シンメトリー＝「繰り返し効果」と考えると、いろいろ思い当たり、納得できる事柄がでてくる。楽式でいうとシャコンヌ、ヴァリエーションがこれに該当する。ABAの三部形式のAテーマの再現もこれに該当する。反進行や逆進攻技法も含めて、「繰り返しの効果」＝シンメトリー。



19.創立30周年グループ「蒼」新作書き下ろし演奏会ご挨拶

東関東大震災で犠牲になられた方々のご冥福をお祈り致しますと併に、被災された地域が一日も早く全面復興されますよう、会員一同深くご祈念申し上げます。

現代音楽作曲家グループ蒼は、作曲家名取吾朗氏の理念である「エコーや師弟関係に一切とらわれず、個々が自らの芸術性に根ざした作品を追求する」のもとに一九八二年七月に創設されました。毎回、出品者の合意に基づいて楽器編成を特定し、新作書き下ろし演奏会を行うという独自の形式を取ってまいりましたが、おかげさまで今回三十周年記念グループ「蒼」新作書き下ろし演奏会を迎えることができました。これまでに寄せられた皆様方のご理解と心あたたまるご支援に心から御礼申し上げます。

重要文化財であります旧東京音楽学校奏楽堂に会場を移して九回目になりますが、今回は30周年を記念して、グループ「蒼」創設者名取吾朗の 弦楽四重奏曲「薄氷の湖畔」を演奏致しますとともに、室内管弦楽に演奏形態を特定し、5つの新作を演奏いたします。日本が西洋音楽を取り入れた黎明期の建造物を会場として、われわれグループ「蒼」がどのようにかわり、現代音楽の新作書き下ろし演奏を行うのかを最後までご傾聴頂けましたら幸いに存じます。

グループ「蒼」創始者 名取吾朗氏を偲ぶ

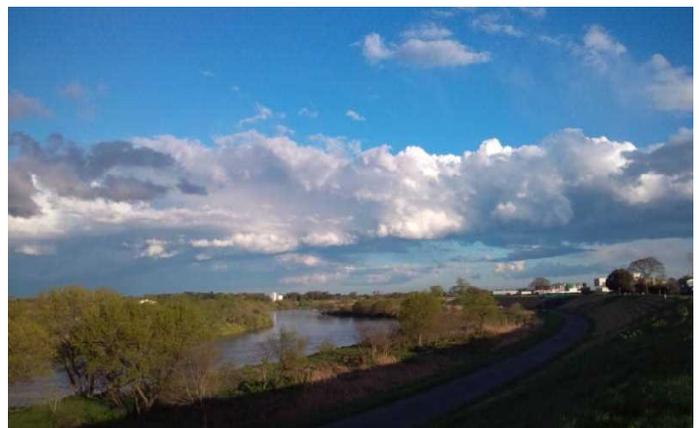
名取吾朗氏の訃報が届いたとき、弟子にして頂いてから何年も経っていませんでした。七十歳でご逝去され、墓標には奥様の手で「蒼」の文字が刻まれております。「作曲家は自身の作品を残さなければダメだ。そのためには新作を作って発表することだ」とおっしゃって、グループ「蒼」を創設されました。

「私の曲は他の人の曲とは違う。名取吾朗の特徴がある。次に何が来るのか、予想できないような曲を書きなさい。手に汗握るような、聴く人を驚かせるような曲を書きなさい。楽器の演奏技法はすべて使いなさい。「半音階の十二音を同時に鳴らしたとき、各音のピッチが合っていれば、言葉では言い表せない素晴らしい響きが生まれるのだよ」。ご自身の才能に確たる自信を持ち、芸術表現に独自の姿勢を貫いていらっしゃいました。「蒼」は現代音楽作曲グループであること、演奏形態が合意に基づいて特定されること以外、エコーや作風に対する制約は一切ありません。グループ「蒼」は新作を書き下ろし発表する絶好の場であるわけです。

名取吾朗作曲吹奏楽コンクール課題曲「吹奏楽のためのアラバスク」の年、私の勤める杉戸農業高吹奏楽部は金賞に輝きます。名取先生は吹奏楽界で一躍時の人になりました。私が埼玉県吹奏楽連盟副理事長の時代、名取吾朗氏が吹奏楽コンクールの審査で埼玉を訪れました。審査が終わった夜に名取吾朗氏と二人だけでお酒を酌み交わし、作曲の話になり、名取吾朗先生の弟子にして頂きました。最晩年、ご自身の死期が近いことを自覚されたのでしょうか。今にして思えば手前味噌と思いつつ、全日吹連盟理事のお立場を小菅に託そうとなさっていらっしゃったのでしょうか。当時の私は埼玉県立春日部高校現役教師であり、各方面に渡り仕事は過酷を極めており、この上全日吹連盟名取理事の後任に座るなど恐れ多く、分不相応で、どんなに名取吾朗先生がおっしゃられてもお断りせざるを得ませんでした。名取先生は怒りを露わにされ「作曲家名取吾朗の跡継ぎはお前ではない!」。今になってそのことが、親を亡くしたときの子供のように悔やまれてなりません。お亡くなりになるとは思ってもいないで、お見舞いに伺ったとき「いろいろなことを考えてるんだよ」と漏らされました。お仕事半ばでのご病気でありました。

戦役でずたずたにされたお身体を健康に戻すことが叶わず、七十歳の生涯を閉じられました。晩年に創設されたグループ「蒼」は、今回三十周年記念新作演奏会を迎えています。

グループ「蒼」代表 小菅泰雄



20. 小高秀一氏葬儀お通夜参列報告

2013年12月6日

I. お通夜参列報告

「参列者雲のごとし」というのは中国的表現ではありますが、昨夜のお通夜がまさにそれでした。350台入れる駐車場が満車になり、1000個位はあった御霊前引き替えのお返しが、帰りには品切れになり、引換券の裏に住所氏名を書いて渡し、帰ってくるありさまでした。池田浩先生・友利明長先生の葬儀も大きかったです。そのお二方の葬儀を大きく上回り1,500人は参列していたのでしょうか。

ちょっとした体育館位はある広い第一・第二式場ぶち抜きの式場に、500席以上はあったのでしょうか。正面に飾られた生花は、最上段は親族夫妻連名でうめられ、二段目は親戚関係者でうめられて、同じく三段目左隅に「葵の会一同」、ひとつあけた左三番目に「埼玉大学同級生一同」の生花、同じく三段目右二番目に「埼玉大学同級生一同」の生花が飾られていました。

誰が誰やら判らず、知人がどこにいるのか判らず、一緒に行った田中清恵さん。大澤滋美さん・中村恵子さんとはぐれてしまうのではないかと心配する中、長蛇の列の中程にいて、6時にお通夜の読経が始まり、40分ほどで自分の番がきたので、焼香一回で済ませて帰りました。

どんなにすごい葬儀をやっていたかよりも長生きするのが一番です。自分は125歳まで、ぼけもせず、五体満足で生きようと思っています。

ご送金頂いた方々の住所氏名を同封し、「埼玉大学同級生有志」として「御霊前」を受付に納めさせていただきます。

II. 経過報告 以下は小高氏ご逝去から生花代金集金までのFAXによる経緯です。 2013年11月29日

(1)同級生の皆様 昨日の訃報です。

小高秀一氏が肝機能不全のため昨日（11月28日金午後）に逝去されました。

お通夜：12月6日（金）午後6時。告別式：12月7日（木）午後12時30分

葬儀場：「川越市民聖苑やすらぎのさと」第一・第二式場にて 川越市大字小仙波567-1

電話0120-882-606 駐車場350台

最寄り駅 JR川越線「川越駅」東口下車

西武バス「川越グリーンパーク」行き「川越市民聖苑やすらぎのさと」下車

所要時間約10分

(2)昨日のお知らせの続きです。

2013年11月30日

「埼玉大学同級生一同」として生花を一基（可能なら一対）、供したいと思います。

よろしい方は下記宛てに一口5,000円を是非ご協力ください。

〒344-0114春日部市東中野1133-10 小菅泰雄宛て送金して下さい。明日12月1日午後必着で一基、又は一対申し込む予定です。

残金は「埼玉大学同級生」名の香典袋に入れて12月6日のお通夜に受付に納めます。

※西村節子さんの折りにはこのことに気づきませんでした。反省しております。

2. 中間報告

2013年12月4日

小高秀一氏ご逝去の葬儀に「埼玉大学同級生一同」として生花を供する案ご協力頂きありがとうございます。本時点のご送金状況をご報告致します。

生花

二基（15,750×2=31,500）を「埼玉大学同級生一同」として発注し、残金を12月6日お通夜に持って行く予定です。ご送金頂いた方々の住所氏名を同封し、「埼玉大学同級生有志」としてを受付に納めさせていただきます。

3. 小高秀一氏プロフィール（インターネットから取得）

小高秀一先生は2013年11月28日、73歳にて永眠されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

以下の経歴は、2001年時点、川越牧声会を指揮されていた時点のものを、一部修正しました。

川越市出身。埼玉大学教育学部音楽科卒業。教職に携わるかわら、学生、一般合唱団等を指導する。川越高校音楽部を全日本合唱コンクール全国大会・NHK合唱コンクール全国大会において銀賞に、川越牧声会を全日本合唱コンクール全国大会において銀賞に導く、という実績を残している。

川越牧声会の他、男声合唱団イル・カンパニーレ、女声合唱団「秀麗」などを指導した。

元埼玉県合唱連盟理事長、元川越市合唱連盟会長。元埼玉県立芸術総合高校高等学校校長。

大谷冽子、牧野統、桜井将喜他各氏に師事。

21. 逝ってしまった人たち

父が亡くなったのは、私が杉戸農業高校に赴任した年の11月だから、今生きていれば105歳ということになる。いま元気なのは少々無理かも知れない。もう、そんなに年月が流れてしまったのか。その後、私の杉戸農業高校現職の時代10年間で、埼玉大学のピアノの先生だった池田浩先生や声楽の友利明長先生・山本れん先生が、たて続けに亡くなられた。作曲をご教示頂いた名取吾朗先生が亡くなられたのは現職時代に残り9年を残した1992年4月27日、県立杉戸高校に着任した4月である。埼玉大学の土肥泰先生が亡くなられたのは1999年1月9日、お正月の5日にご年始にお伺いして何日か過ぎた頃で、私が現役引退の二年前だった。母も同じ頃に逝去した。両親と恩師をすべて失い、又現役引退後に長兄小菅章雄、次女の姉中村廸代が逝ってしまった。両親と5人兄弟の二人、恩師の全員が逝ってしまい、寂しさひとしおだったところの昨年12月5日に、親友小高秀一君の逝去に遭遇した。さすがに身にこたえた。さびしさはさておき、生きていることに感謝して人生を逞しく、一層丁寧生きていくより仕方がない。今生きている周囲の全ての人たちを大切に生きていこうと思う。

自分の生き方が間違っているから、改めるべきはあらためて、この問題を解決すればさびしさが消えていくというような、ごくごく単純な問題なのではない。若い頃から近しかった人たちがことごとく、自分の周りから消えていくのだ。そうだ、消えていってしまうのだ。そして、その人達との思い出だけが記憶の中に残っている。その人達が今はもう自分のそばに居ないことに気づくとき、云いようのない寂しさを感じ、自分はあと何年生きるのだろうかと思う。天涯孤独とは、老人になって周囲の人たちが皆逝ってしまった状況に至ったときの自分をいうのかも知れない。その立場や状況に至っても孤独感を感じない者がいるだろうか。自分の周囲に近親者や友人や知人が皆逝ってしまっても、はつらつと元気いっぱい生き抜いている者がいるのだろうか。居たら、その人は大した老人だ。そうだ、心の奥からわいてくるこの無性に寂しい気持ちと悲しい気持ちを克服して生きていかなければ、長生きはできないだろうと思う。

90歳代まで生きる人たちが、今や常識的になってきた。百歳の呼び声も徐々に高くなってきている。そうした方々は、近い人たちが逝ってしまっても、私を感じているような無性に寂しい気持ちを感じていないのだろうか。周囲に近い人たちがたくさんいるので寂しくないのだろうか。そうかも知れない。私は故郷秩父を離れてしまった。故郷を離れずにいたら、近い人たちは自分の周囲に居ただろうか。両親や恩師や兄弟達や友人は、遅かれ早かれ逝ってしまっただろう。故郷に残っている近い人たちとは、どのような関係の人たちだったろう。幼友達か。私の幼少の頃は中村、上町、野坂と住所が変わってきたのだから、赤ん坊の頃から物心ついた頃の幼友達とは離れてしまっている。では同級生達か。中村にいた頃の小学1年から3年二学期までの友達とは、やはり移転によって離れてしまっている。小学3年三学期から高校時代の同級生達とは友達でいられたのかも知れない。秩父という土地柄は、大学受験に成功すると郷里を離れなければ大學に通うことはできない。大學を卒業して郷里に帰る人は、学生時代の同級生と離れることになるし、秩父を離れて居を構える人たちは、郷里の幼友達と離れることになる。これはやむを得ないことなのだ。

働き盛りの頃に近い人たちは、郷里にいても離れていてもそれほど変わらないだろうと思う。つまりは転勤で近い関係が一区切りつけられるからだ。職場の同僚・先輩後輩・知人友人のすべてが、転勤によってガラリと変わる。私にとって、この時代に得られた知古は、その後の人生に深く関わってこなかった。ある人が言った。「退職したら、自分の周りに近い人たちが全く居なくなったのですよ」。又ある人が言った。「もう年賀状は書かないことにしましたから、よろしく」。私は年に一度の年賀ハガキのやりとりを大切にしている。しかしその数は徐々にではあるが減ってきているのも事実だ。

その後の人生ではやはり、作曲関係の人たちとの関わりが「近い人たち」になってきている。私の人生そのものが作曲だからだ。葵の会・埼玉県音楽家協会・詩と音楽の会・グループ「蒼」。年に一二度しか会わない間柄であっても、私にとっては「人とのつながり」という点で大切な関係になっている。ご近所との関係も、つとめて大切にしている。紫式部作源氏物語第九帖「葵」に次の和歌がある。和歌「とまる身も 消えしも同じ露の世に 心おくらむほどぞはかなき」。意味は「この世に残った者も亡くなったあの人も、同じ露の世に心をおいているほど、はかないことはありません」。光源氏が六条御息所に宛てた返し歌だが、人の世の哀感をずばり言い当てている。私はこの年になって初めて、このような寂しさを痛切に感じているのであるが、紫式部は一体この和歌を何歳の頃に源氏物語に織り込んだのであろうか。大した作家あった。

次は般若心経を現代能歌劇に取り入れるための現代語台本である。

22. 般若心経現代語歌詞 —現代能歌劇「松風」作曲台本から転載—

藻汐 お坊様、どうか私たち姉妹が、行平様に従って天に昇れますようにご回向くださいませ。

僧 私は、皆様方の再会の悦びに心を打たれました。ともに天に昇れますよう、謹んで回向させて戴きます。皆様もご一緒に唱えてください。

四重唱「般若心経」

プロローグ

僧 観音様が、深い知恵の悟りの修行をされている時、
心と身体（五つ）の要素は実体がないのだと見極められて、
一切の苦しみを取り除かれました。

1番

舍利子よ、肉体は実体がないのです。

四人 実体がなく、見えているに過ぎません。

僧 肉体は、実体がないから、

四人 感覚や想像、行動や知識もまた同じです。

2番

僧 舍利子よ、心の動きや思いは、実体がないのだから、

四人 生死もなく、清らかさや汚れもなく、増すことも減ることもありません。

僧 実体がない中の肉体はないのだから、

四人 感覚や想像、行動や知識はなく、眼・耳・鼻・舌・体・意識もなく、

体・声・香り・味・触覚・心もありません。目に映る光景や心の世界もないのです。

3番

行平 悟りが開けないことはないし、悟りが開けなくなることもありません。

僧 老いも死もないし、老いや死がなくなることもありません。

行平 苦しみや、その原因をなくす修行の道はありません。

僧 悟りの道を知ること、修行の成果を得ることもありません。

4番

また、修行成果が得られないこともありませんから、

悟りの道（きえ）を求める者は、知恵の悟りの境地を求め修行の完成に帰依します。

藻汐・小藤 このように心は何の妨げもなく、妨げがないから、恐れもなく、

四人 すべての誤った考えや夢想から遠く離れて、悟りの境地を究められるのです。

5番

僧 過去・現在・未来の仏様たちは、

四人 知恵の悟りの境地を求め修行の完成に帰依することによって、この上ない悟りを得るのです。

僧 知るがよい。

四人 知恵の完成こそが偉大な真言であり、偉大な悟りの真言であり、無上の真言であり、比類なき真言であることを。

6番

藻汐・小藤 一切の苦しみを除いて、真実であって嘘偽りではないから、

僧 知恵の完成の真言を説くのです。

即ち真言は説き（まこと）ます。

四人 往きて往きて、彼岸に往き、彼岸に到達した者こそ、悟りそのものです。

幸いあれ。知恵の完成の心の経典、般若心経。

間

僧が目を閉じて合掌している中を、行平が先に立って上手に退場。藻汐・小藤は僧に一礼の後、行平に従って、上手に藻汐、小藤の順で上手に退場する。

僧 （合掌を解き、ゆっくりと眼を開ける）夢を見ていた。何と寂しく、悲しい姉妹の夢であったろう。

おお、夜も明けたか。晴れやかな夜明けた。松風ばかりが吹き残っている。

（客席後方をジッと見つめている）

さあ、西国行脚を志して、再び旅を続けよう。

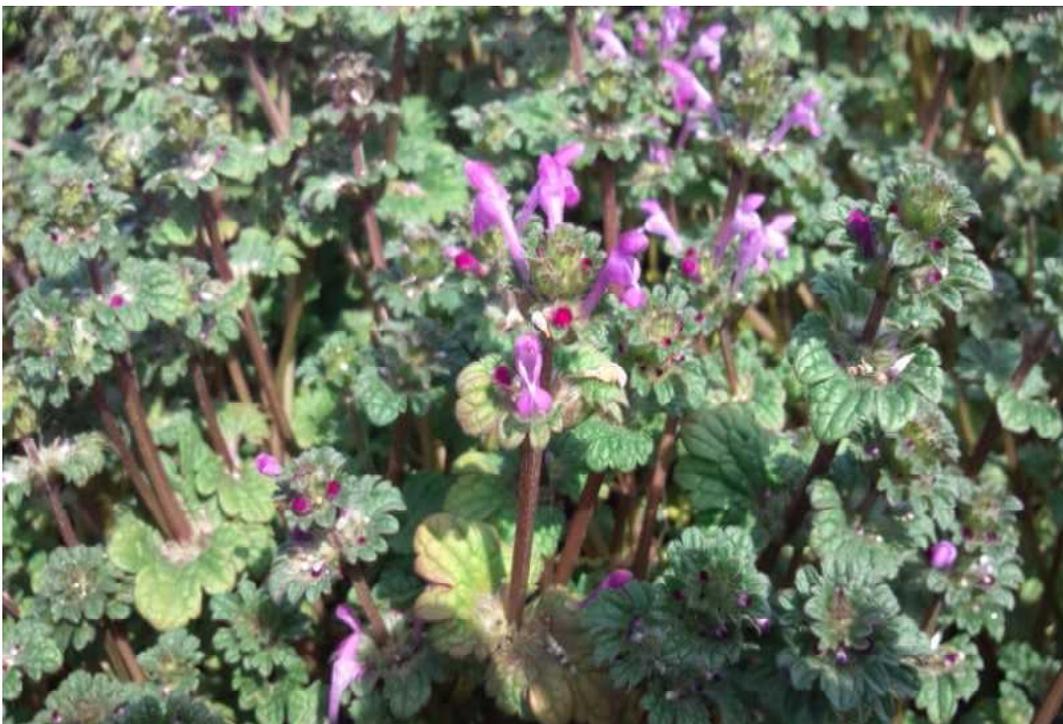
つれづれなるままに2014

「つれづれなるまゝに日暮らし硯に向ひて、心に移り行くよしなしごとを そこはかたなく書きつくれば、怪しうこそ物狂ししけれ」とは兼好法師の徒然草冒頭文である。近頃のちまたのできごとを書きとめておこうと思い、そのタイトルを考えた結果、吉田兼好法師の草子表題を拝借することにした。

平成生まれの若もの達は、昭和生まれ世代とくらべて著しく細身の人が多くなった。また、背が高い若者が多い。「普通の靴屋では手に入らない」足サイズの若者がたくさんいる。ひょっとして平成生まれは、昭和生まれと違った人種になったのか?と勘違いしそうなくらいである。平成生まれの若者の活躍も著しく、国際感覚に優れ、たくさんの若者が世界選手権や国際コンクールで優秀な成績をおさめている。昭和時代も英雄的存在は多く生まれてきたが、平成時代に入って、平成生まれ世代の活躍が極めて多くなってきたニュースを耳にすると「進取の気性に富む若者」が多くなったと強く感じるようになった。平成生まれの若人のは、伸びやかに自己の人生を切り開いて生き抜いている若者が大変多くいるのだ。

一方たまらなく不愉快な話が、正月過ぎに飛び込んできた。ソチ・オリンピック直前になって、フィギュアスケートで高橋大輔選手のショートプログラム出場のために選択した曲が「作曲者名空欄」となったというニュースである。オリンピック公式サイトでは「作曲者が、実際には作曲していなかったことが判明した。だから作曲者名が削除された」というのだ。騙り作曲者名と聞かされた選手本人が一番驚いたことだろう。友人知人、出場選手達は男女を問わず、エース高橋大輔選手に起こった、かつて聞いたこともないようなハプニングに、心が傷つき動揺させられたに違いない。フィギュアスケート関係者に与えた心的悪影響の波紋は、計り知れないものがあつたらうと推察する。騙った張本人、「生きる金欲しさ」に18年間も騙り者と「作曲上」で、付き合い続けた「影なる男」。この二人にはフィギュアスケート全関係者の傷心・落胆・気概のゆらぎを、逆立ちしても理解できまい。また土壇場で起こった当事者二人の裏切り合い報道。なんともみっともない日本の中年男が二人いる。伸びやかに、純粹に人生を切り開いて生き抜いている平成生まれの若者達と比較して、みっともない中年男二人の偽りの人生の落差はどうしたことだろう。怪しうこそ物狂ししけれ。

春の七草の一つ「仏の座」



既存のHPを別のパソコンに移す手順

1. 今までのパソコン

フォルダごとCD-Rにいったんコピーしてから、新しいパソコンにフォルダごと移動させます。

- (1)コンピューターのドキュメントを開きます。フォルダーが表示されます。
- (2)フォルダーの中から新しいパソコンに移す目的のホームページ名を確認します。
- (3)新しいCD-Rを挿入して、フォーマットします。
- (4)フォーマット完了のCD-Rに、ドキュメント内のホームページをフォルダごとドラッグします。
- (5)これでCD-Rに目的のホームページがコピーできました。

2. 新しいパソコン

新しいパソコンにフォルダごと移動させます。

- (6)ホームページをコピーしたCD-Rを新しいパソコンに挿入して、コンピューターを開きます。
- (7)コンピューターのCD-Rの入ったところをダブルクリックしてホームページ名を確認します。
- (8)新しいパソコンのドキュメントにCD-Rのホームページ名をドラッグします。
- (9)これでホームページが新しいパソコンに移せました。

3. ホームページ・ビルダーを新しいパソコンに認識させます。

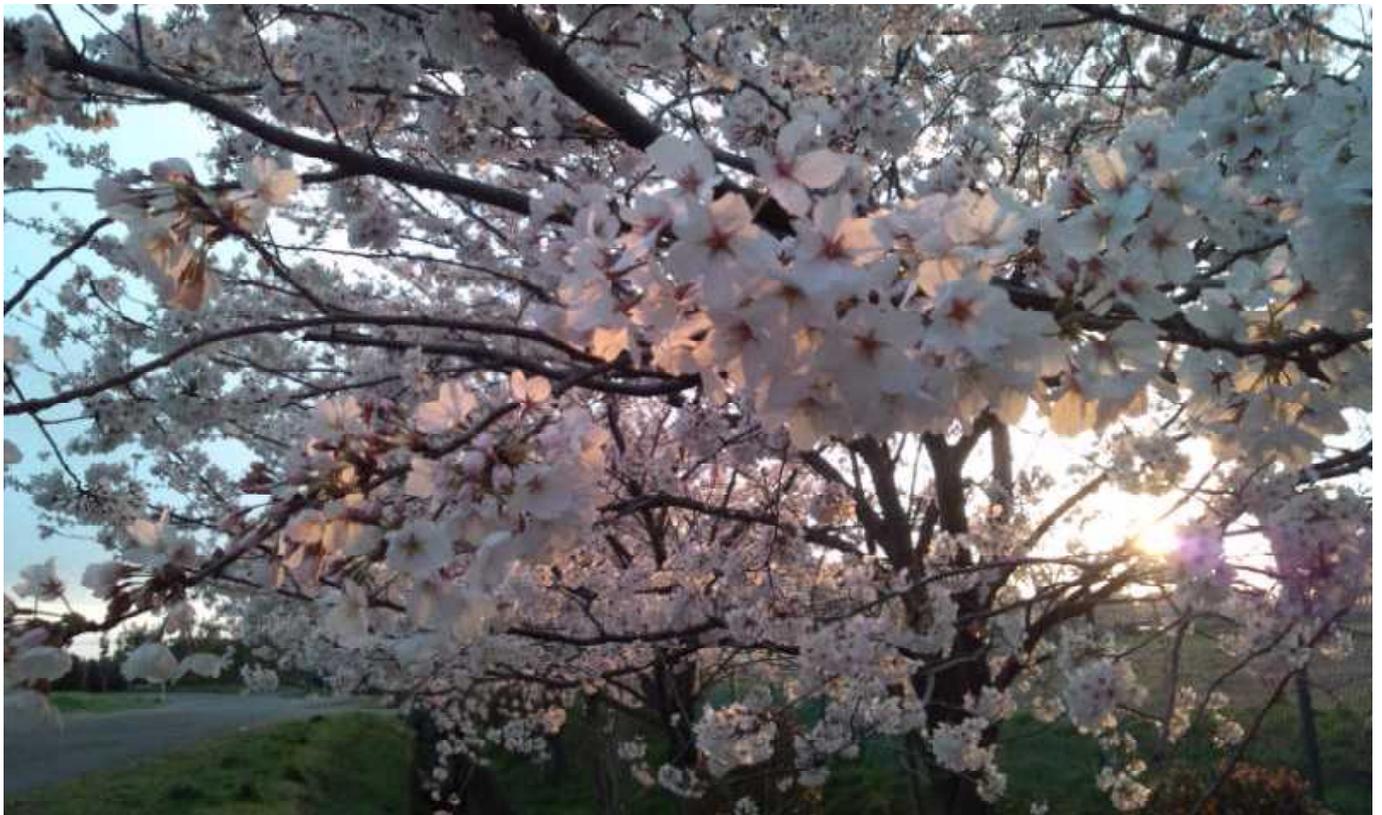
新しいパソコンのビルダーを起動し、コンピューター・ドキュメントにあるホームページを認識させます。

- (10)新しいパソコンのビルダーを起動します。
- (11)ファイルを開いてドキュメントにあるホームページ名のindex.htmlファイルを指定します。

あとは転送設定したサーバーに転送・・となります。

これまでと同じサーバーに転送する場合は、最初は上書きになるだけですので安心して転送してください。

春日部市東中野公園の桜



2014年4月5日夕方

虹彩光凝固術

へいそくぐうかくりよくないしろう

パソコンのディスプレイをいつも見つめてきたので緑内障になってしまった。閉塞隅角緑内障だそうだ。1990年頃から総合文化祭の書類作成で、日々大半をパソコンに向かって仕事をするようになった。時を同じくして「手書き」による作曲から、浄書ソフトFinalerによって楽譜制作を行うようになったので、「仕事＝ディスプレイを見つめる」ということになり、この状態のまま今日まできている。1997年代に入ると目の疲れ方が、「これはただ事ではない」と感じるようになった。そう思ってもいわゆる眼病ではないので、「異常な目の疲れ方」ではあってもサルファ剤入り点眼薬を使って充血をとる位しか思い当たらず、ずーっとそのまま最近まで、眼科に診察を受けずにきてしまった。

ところが2013年春、左目視野の中心付近焦点のすぐ上が、太陽を見つめて目をそらした時のように緑色になって、その緑色が消えないようになった。これは眼科に行かなければいけない。けれど我が町（旧庄和町）には眼科医がない。電車に乗って春日部市立病院に行かなければ眼科にかかれない。行ったら最後その日全日つぶれることになる。だから「一日延ばし」がついに一年経って、今年の2月上旬に、かかりつけ医から、我が家の近くに眼科ができたと聞いて、翌日早速出かけていった。中年の女医だった。「左目の眼圧が非常に高い。緑内障が疑われる。うちでは処置できない」から、検査データをつけた紹介状を書くので、春日部駅近くの眼科に行くようにいわれた。早速翌日午後に行った。二週間ほど経った昨日、虹彩光凝固術というレーザー処置を受けて帰宅した。でも左目焦点のすぐ上が見えない状態は「もう治らない」といわれた。

しかし、作曲をやめるわけにはいかない。いろいろな準備書類をそろえるワープロ・ソフトは今や世の常識で、これもやめるわけにはいかない。これからずっと、眼科のお世話になるのだろうか。春日部駅近くの眼科医曰く。「あと三年早く来ていれば、左目は治せたのに」。……。三年前は「異常な目の疲れ方」という認識しかなかった。眼病ではないと思って、眼の充血をサルファ剤で済ませてきた。それが閉塞隅角緑内障という、大層な眼病にかかっていた。こんなことになるなんて少しも自覚していなかった。



左は手術前後の左目写真である。

緑内障は、虹彩（角膜と水晶体の間にある輪状の薄い膜）の隙間が狭くなるか、塞がってしまい、涙（房水）が中いき渡らないので、眼圧が上昇する病気だそうだ。そのためレーザーで虹彩に小さな穴を開けて房水の通りをよくする手術をした。この手術名をレーザー虹彩切開術というそうだ。

写真上194が術前の虹彩断面写真。

2014年3月5日午後4時51分。

上部の、ボールペンで触れたあたりの黒い部分が極めて狭く細い。これでは房水が入りにくい。



写真200が術後。2014年3月5日午後5時34分。

ボールペンの線で示したあたりが広がって、房水が入り込んだことがわかる。

ボールペンの○印が、レーザーで開けた小さな穴。

このような治療ができなかった昔なら、放置しておくしかなかったのだろうか。そうしたら、その頃ならば私の左目は失明したのかも知れない。

手術で虹彩は改善したが、左目視野の中心付近、焦点上の見えない部分は改善していない。眼を酷使した結果こうなったのだから仕方ないのかも知れないが、左目の焦点がぼやけていて、うとうしい。

追想の記—埼玉県立杉戸高等学校創立30周年記念誌に寄せて—

平成18年5月に平成4年度に杉戸高校に着任したメンバーが久しぶりに同期会を開きました。着任者9人中やむを得ないご事情で欠席されたお一人を除き、8人が集まりました。近況報告や杉戸高校時代の思い出話に花を咲かせて、予定の2時間を過ぎて話題が尽きませんでした。時間になりやむを得ず記念写真を撮って散会しました。

私たちは平成4年に業務主事1名を含めた9名で杉戸高校に着任しました。私自身は高等学校文化連盟主催の全国大会「埼玉」を翌年に控えての杉戸高校への転勤でした。総合開会式の企画委員と吹奏楽部門開催の部長という二つの役職を持ったために他の外郭団体のすべて、高音研理事・吹奏楽連盟副理事長から退き、捨て石になる覚悟でやりました。全国大会が終わって、すべての役職から開放されたときの杉高での生活は、定年退職まで残り7年半でした。

記念誌への寄稿文ですから美辞麗句をちりばめた贅辞にすべきところ、浅学非才な私にとりましてはご期待に沿える文章が書けそうにありませんので、誠に失礼とは存じますがお許しを頂いて、自身の杉戸高校生活を振り返っての記述にさせていただきます。

授業は自分のスタイルができ上がっていました。外郭団体の仕事もすべて一段落ついてフリーになっていましたので、教師としてやらなければならない仕事は、学校の中核で「良い学校にするために仕事をする」ことだけでした。幸いにして気力と体力は健在でした。平成6年3月に近隣の学校の学校要覧を徹底的に目を通して教務部の組織を整えて、教務主任として教務部をスタートさせました。教務組織の充実に外郭団体で苦労を重ねた経験が生きました。教務主任になった平成6年4月からは、まず入試業務の校内基準の成文化に意を注ぎました。平成七年は杉高創立20周年が巡ってきました。この資料づくりにも組織の充実と資料の見やすさに意を注ぎました。平成八年には、職員間の声によって校務分掌組織作成基準の見直しに着手することができました。既存の各分掌に広報部を新設して整備しました。学校運営は各分掌会議の合意の積み重ねで動いていくことが正しいと考える観点から、最終且つ最高の決定機関である職員会議は、意見が出尽くして全員の合意で承認されることが理想であると考えております。教育現場の民主化はその一環で、実際その通りになり、杉高の職員室は和やかになりました。

平成9年の教務主任は別の方に交代し平成10年にまた私が教務主任になりました。平成10年10月8日、全日本音楽教育研究会高等学校部会全国大会「埼玉大会」が大宮ソニックシティで開かれて、国際会議室で私が創作の公開授業を行いました。杉戸高校の生徒達がソニックシティ国際会議室に出向き、その生徒達を前にしての公開授業でした。公開授業の結果は上々で好評でした。平成13年8月に全国高文連「福岡大会」が開催されましたが、その吹奏楽部門に杉戸高校吹奏楽部が推薦されて出場しました。これで杉高吹奏楽部にも尽くすことができたと考えています。

教務主任を退いて、平成11年から新設された広報部の主任になりました。主な仕事は学校案内の作成と県が主催する「高等学校展」への参加がありました。広報部の初代主任が素晴らしい学校案内を作ってくださいました。一目瞭然のカリキュラムのレイアウトを初め、教育課程・進路情報・部活動案内の各項毎に心に響くキャッチコピーの挿入を心がけられて、他校に類を見ない杉戸高校学校案内の原形ができ上がりました。私が広報部主任になったときに県主催の「第一回高等学校展」が大宮高島屋で開催され、春日部高校や伊奈学園総合高校と肩を列べて、杉戸高校も紹介ブースをもらって杉戸高校のアピールに意を注ぎました。杉高学力のレベルアップにも力を入れました。この頃の杉高の入試倍率は年々上昇していて平成12年度は1.51倍になりました。これを契機として職員室の雰囲気が一変し、活気がみなぎったように感じられました。

杉戸高校在任中の吹奏楽部顧問としての9年間にB部で関東大会金賞受賞1回、予選金賞県大会銀賞3回、予選銀賞2回、受賞なし2回でした。埼玉県内トップクラスにいる吹奏楽顧問の先生方は、コンクールに自分の教員生活と人生そのものをかけておられます。私はそうではなく、人生そのものをかけているのは作曲活動で、吹奏楽は管弦楽法を極めればよかったのでした。その差がコンクールの成績の差として現れたのではないかと考えられます。夜遅くまでの練習よりも生徒の安全な下校を優先させて、心の中にある学校教育の範囲内での部活動のあり方を貫きました。生徒の学習活動と部活動の両立を考えました。自分が部活動にのめり込みたくても、職員間との共通意思の疏通を優先させて、それでも練習しているときには全身全霊を傾けて取り組んだ私は、練習に打ち込む火のような自分の熱意と、時間だから早く帰れと指導する姿勢には矛盾があったのかも知れません。コンクール実績を上げるために、もっと遅くまで部活動をやるべきだったのでしょうか。当時何度も自問したことでありましたが、私はそれをやりませんでした。理由は第1に教育現場の部活動の完全下校時間撤廃は、学校教育の範囲を超えていると考えていたこと。第2に家に帰っての生徒達の時間が必要だと考えていたこと。第3に自分がコンクールで上位の成績が欲しいがために、生徒に遅くまで部活をさせることは、他の先生方のお考えはともかく、私の考え方

では自己満足の手段のために部活動を使っていることであり、教育の範囲を逸脱した教師のエゴに他ならないと考えたからでした。しかしコンクールの結果が思わしくなかったときには、私はコンクールの成績では神から見放されているのではないかとよく感じたものでした。コンクール実績を上げるといっただけで考えれば、私の部活動顧問としての姿勢は確かに矛盾がありました。何がなんでも金賞を取るんだという気概がなければ、絶対にトップクラスに入ることはできなかったのです。

平成13年3月私の教職時代は杉戸高校を最後に幕を閉じました。このように追想しても実に早い年月でした。健康で教師生活を過ごせたことが大変ありがたいことでした。率直に申し上げて、教師として自分でやらなければならない仕事を労を惜しんでやらなかったことは、一度もないと思っています。仕事をやらないがために悔いを残したと感じたことも一度もありません。健康に恵まれ、気力の衰えも感じることなく教師生活を終えることができました。

駄弁になりますが、酒宴の席への出席を断ったことが一度もない。盃を傾けられて注がれるのを断ったことも一度もなく、二次会・三次会・四次会と会を重ねるのも毎度のことで、いつも最後まで残っている。それでも体を壊すこともなく、翌日に二日酔いの嫌な匂いをさせるでもありませんでした。幸いにして現在も健康体でいられることは神に感謝しても余りあることに相違ありません。

埼玉県立杉戸高等学校が創立30周年を迎えられたことは誠におめでたいことでもあります。今後ますますのご発展を心からご祈念申し上げます。杉戸高校は現在堤根の地にある埼玉県立杉戸農業高校の跡地に新設された学校であることを知る人は、今ではほとんどいっしょらなくなりました。杉戸高校の前庭に杉戸農業高等学校誕生の地の碑があります。私の杉戸農業高校在任中の十年の間、町の地域の方々が教育の必要性を痛感し、土地を無償で提供して学校建設に意を注いだとよく聞かされました。杉戸農業高校移転後、農地はすべて土地の方々に返されましたが、現在の校地は数年の間残されておりました。私が推測するに、おそらく県には残された杉戸農業高校の旧校地に新設校を作る考えはなかったのだと思います。町の方々が普通高校の新設にご理解と熱意をしめされた結果、杉戸高等学校が30年前に誕生しました。杉戸高等学校が今後のビジョンに向かって邁進されることを願い、今後ますますの杉戸高校のご発展に心からの声援をおくらせていただき、杉戸高校生活追想の記とさせていただきます。

春の七草の一つ「なずな」



春の七草の一つ「はこべ」



突発性自然気胸

ずっと以前の高等学校吹奏楽部顧問に時代、吹奏楽コンクール小編成の部で三年連続三位以内に入ったので、翌年の4月に新入部員がたくさん入って、総勢50人の部活動になった。

それなら今年から大編成の部に出場しなければいけないだろうと考えて、私が作曲した曲を、この吹奏楽部用に編曲してコンクール自由曲してに出場することに決めた。フルスコアは完成した。

パート譜を書き上げるのに相当の日数を要した。毎日の勤務を終えて帰宅後、夜の12時半まで毎晩パート譜を書いて一ヶ月くらい経ったろうか。ようやく書き上げたので学校に行こうと背広に袖を通したら、左側の背中辺りで「プツン」と、糸が切れる音がしたような感覚があって「突発性自然気胸」になってしまった。6月中旬くらいまで60日間、約一ヶ月半入院した。手術は行われなかった。

握り拳（にぎりこぶし）くらいのサイズに縮んでしまった左の肺に、大変太い注射針を肋骨の間から差し入れて、左肺にポンプで空気を注入する。ある程度の大きさになったら空気注入をやめる。左の肺が100パーセント胸の壁面に張り付くまで、安静度Bの状態で一ヶ月半待った。

風呂に入れない。夜中に、誰も起きていない深夜、水道の水でタオルを濡らし、石鹸をつけて身体をこすった。身体の垢がはがれるようにとれた。踵（かかと）をこすったら厚い表皮が、みなとれてしまった。以来、40年が過ぎた。

季節の変わり目、気温が暖かくなっていく頃や、逆に寒さに向かう頃、左肺の穴があいた辺りが「ひつつれるように」痛む時がある。気胸がおさまって退院するときに、医者に言われた。「これからも再発しますよ。安静にしていればおさまって、穴が開くことはありません」。本当にその通りなのである。今でも季節の変わり目に、背中の左辺りが「ひつつれたように」痛むのだ。今日も、いまでも左の背中、気胸で穴が開いてしまったあたりが「ひつつれたように」痛い。いつもは動いたときに痛むのだが、今はじっとしていても、左脇腹のうしろ辺りが「ひつつれたように」いたいむ。



夕の秋空